

第3期芦別市障がい者計画策定に関する アンケート調査集計書

アンケートの概要

アンケートの目的・活用について

第3期障がい者計画を策定するにあたり、相談支援の充実を一つの目標としており、この数年の間に障がいという制度・施策など大きく変化したことについて、障がいのある方とない方が、どのくらい制度や施策についてご理解されているか、併せて、障がいのある方とない方が共生する社会に必要なもの等を調査することを目的として行いました。

集計した内容は、すぐに本市の施策等に反映されるというものではなく、あくまでも計画を策定するにあたっての参考資料として使用するものです。

アンケート対象者

第2期芦別市障がい者計画策定時のアンケート調査と同様に、住民の5%を調査対象者総数とし、次表のとおり対象者区分分類する。

なお、ジェンダー平等の観点から男女の分類は行わないものとする。

- ・令和元年12月19日における人口 13,099人
- ・調査対象者総数(5%) 655人

区分	基準日における人数	調査人数	調査人数の割合	備考
身体障がい (65歳未満)	156人	94人	60.3%	基準日の人数の60%
身体障がい (65歳以上)	879人	280人	31.6%	調査対象者総数から他の調査区分を差し引いた残
知的障がい (年齢要件無)	184人	110人	59.8%	基準日の人数の60%
精神障がい (年齢要件無)	118人	71人	60.2%	基準日の人数の60%
障がい手帳 のない住民	11,762人	100人	0.9%	100を固定
総計	13,099人	655人	5%	

アンケート期間

令和2年1月6日(月)から令和2年1月24日(金)まで

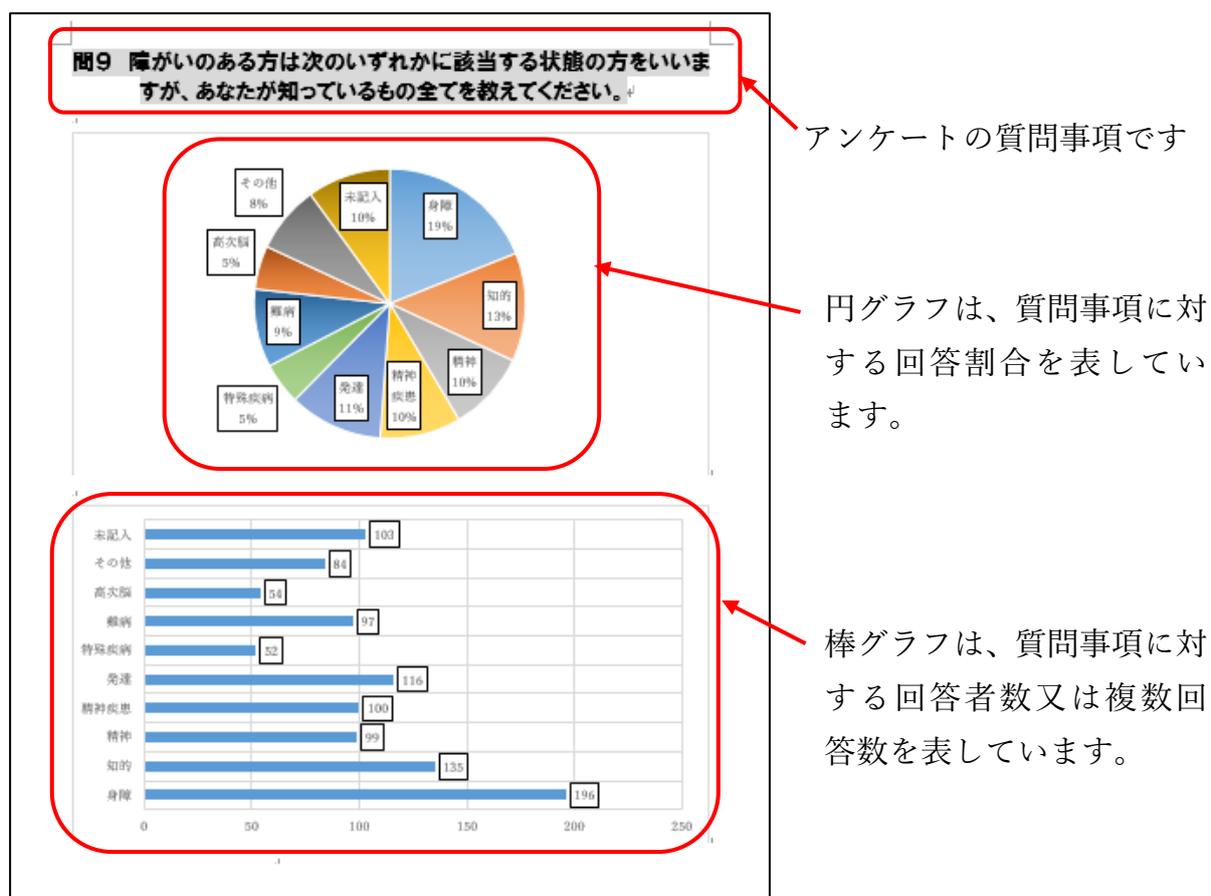
アンケート回収率

アンケート送付者 655人

アンケート回答者 365人

55.73%

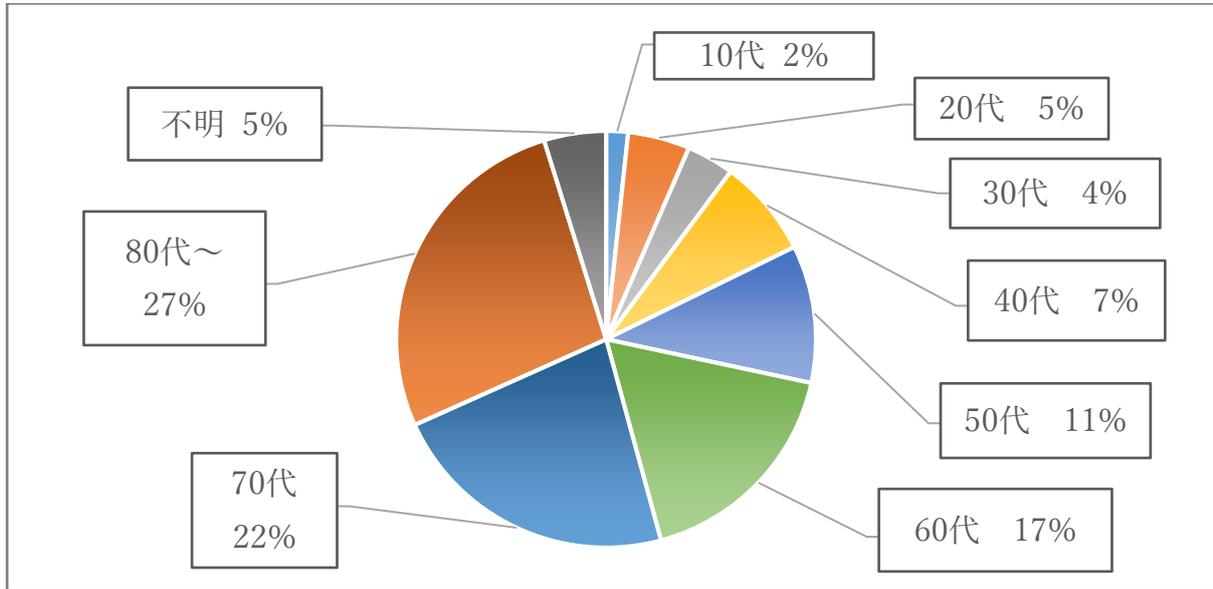
アンケート集計の見方について



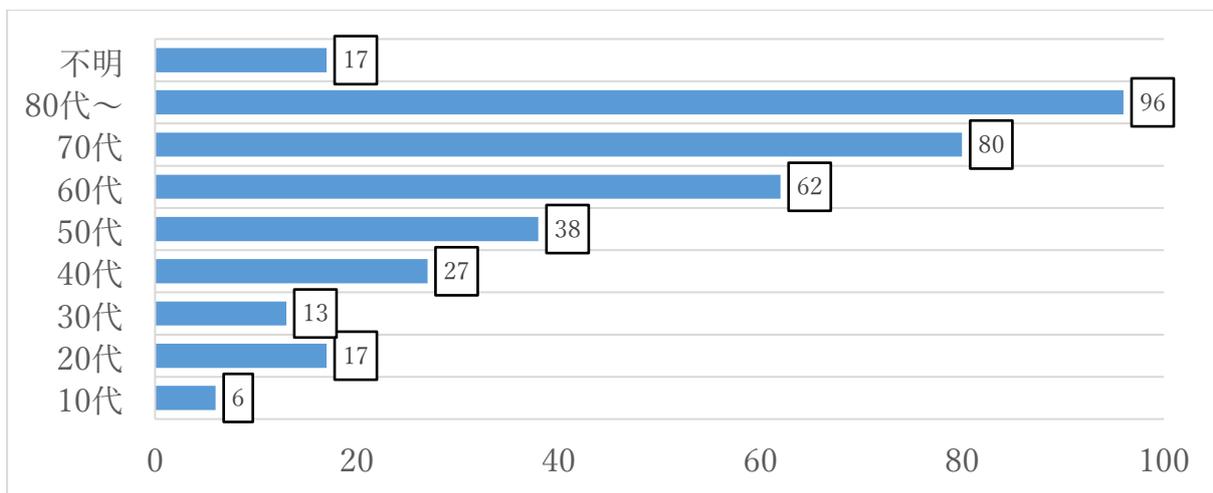
各集計ページに、回答者の傾向分析、その他の回答を選択された方のご意見等を掲載しております。

なお、ご記載いただいたご意見であっても、本アンケートの目的にそぐわない意見（個人を否定するような意見、質問に対する意見となっていないもの等）については本書に記載しておりません。

問1 あなたの年齢をお答えください

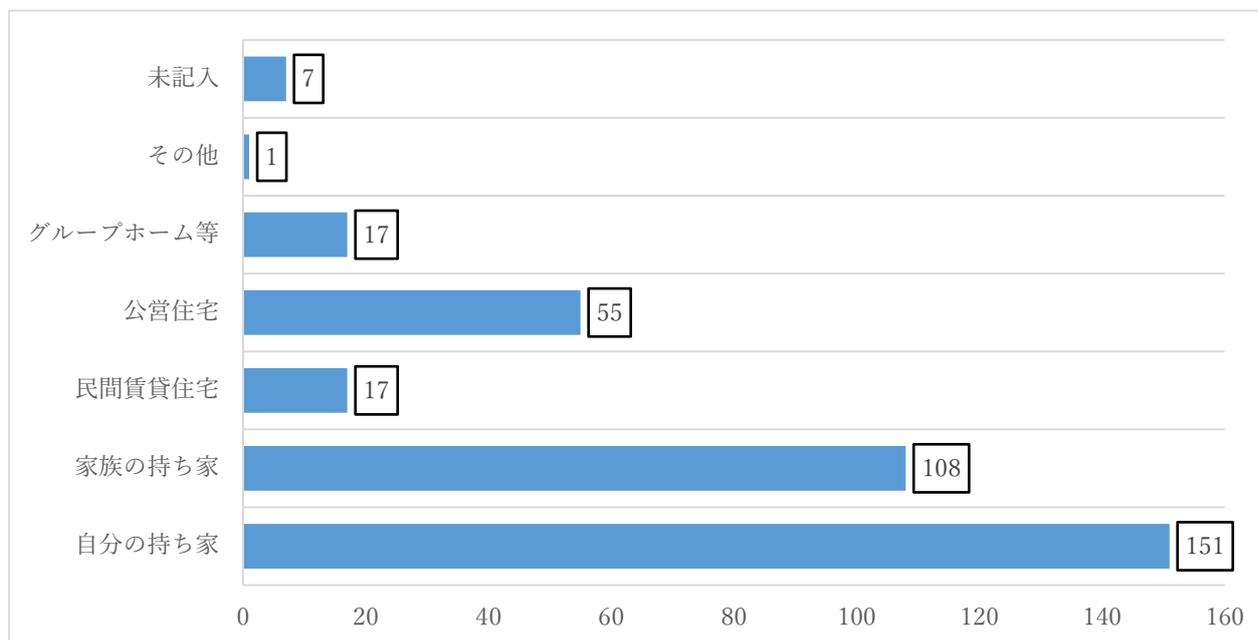
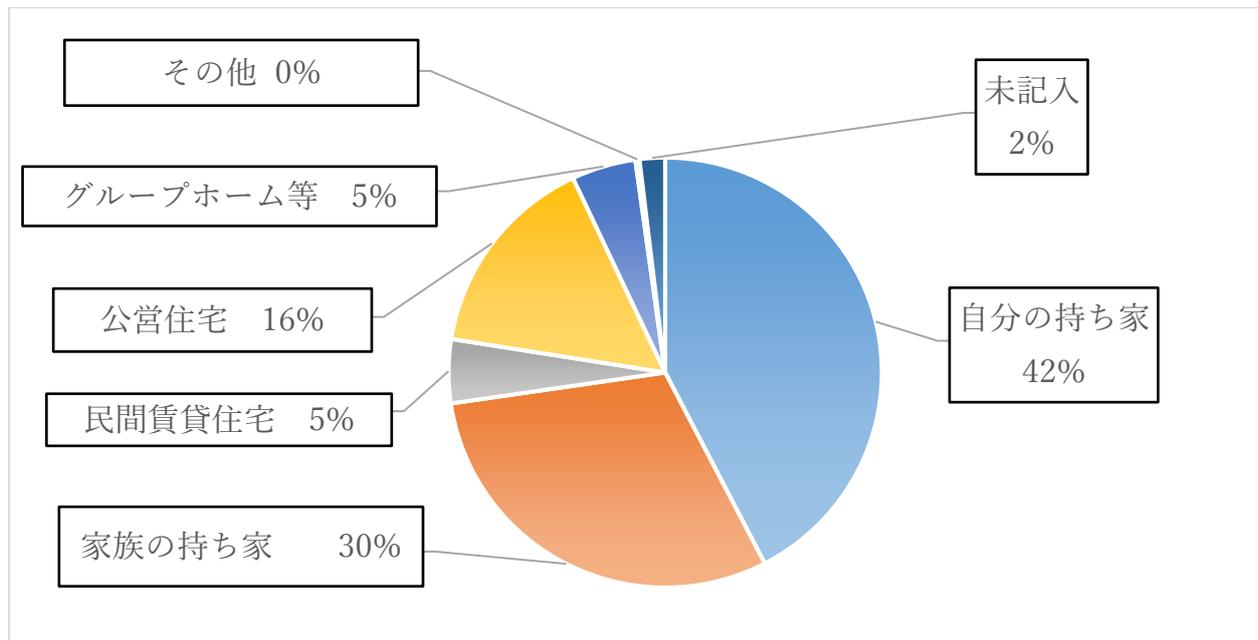


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	不明	合計
人数	6人	17人	13人	27人	38人	62人	80人	96人	17人	365人
割合	1.7%	4.8%	3.6%	7.6%	10.6%	17.4%	22.5%	27.0%	4.8%	100%

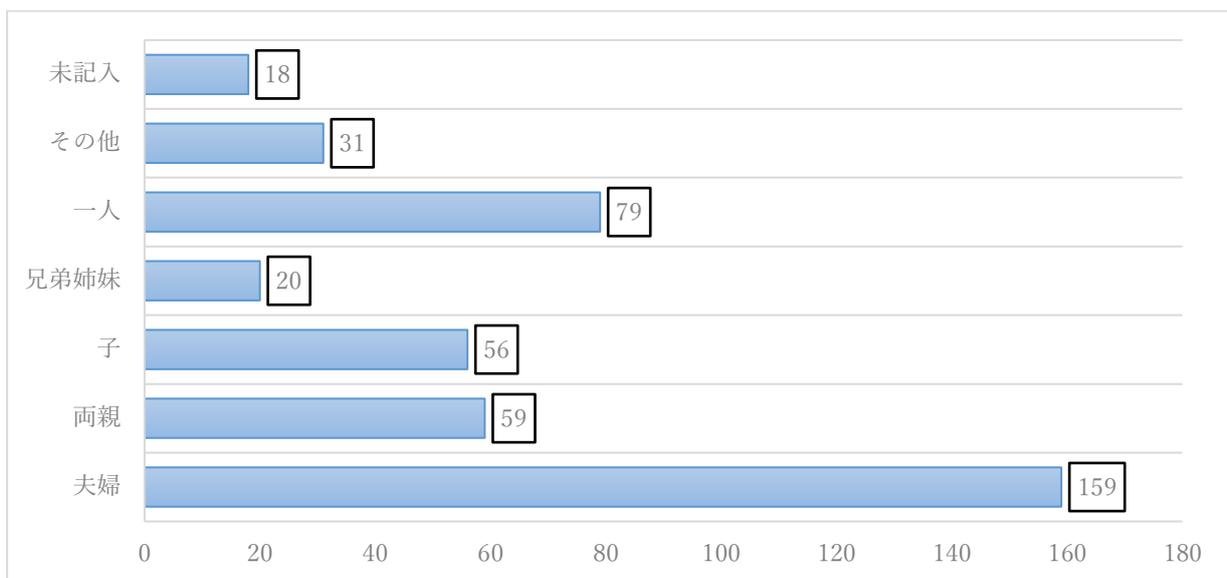
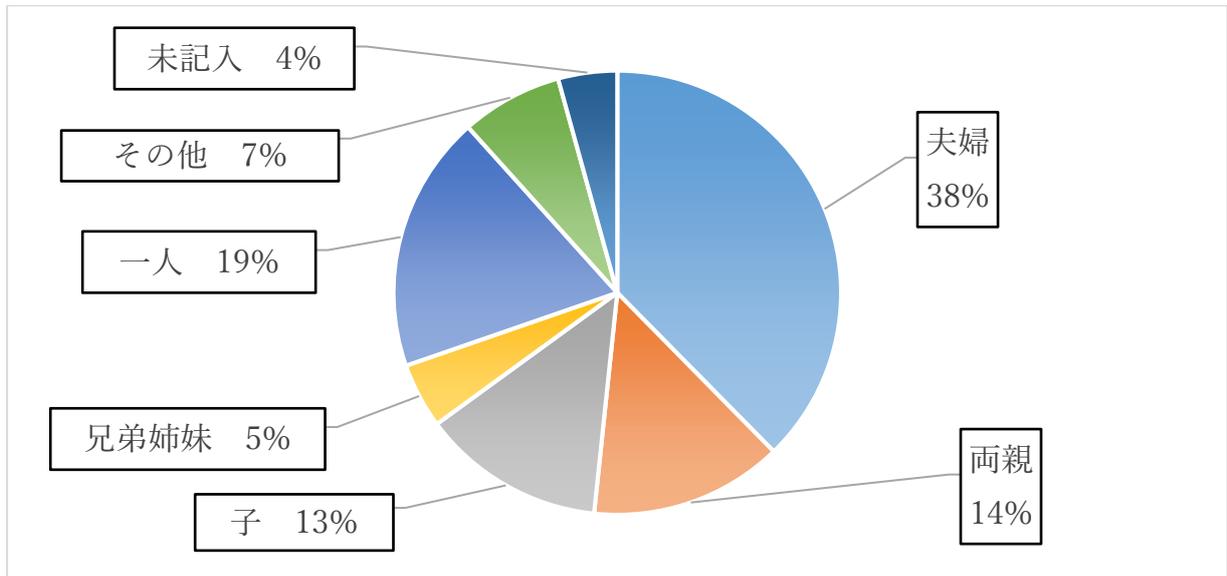


本市の高齢化率（本市人口の65歳以上を占める割合）は、46.7%（令和2年1月31日時点）であり、世代別でのアンケート回答率についても60代以上の回答率が66.9%と非常に高い結果となり、高齢の方が障がい福祉に関する興味が高いことがわかりました。

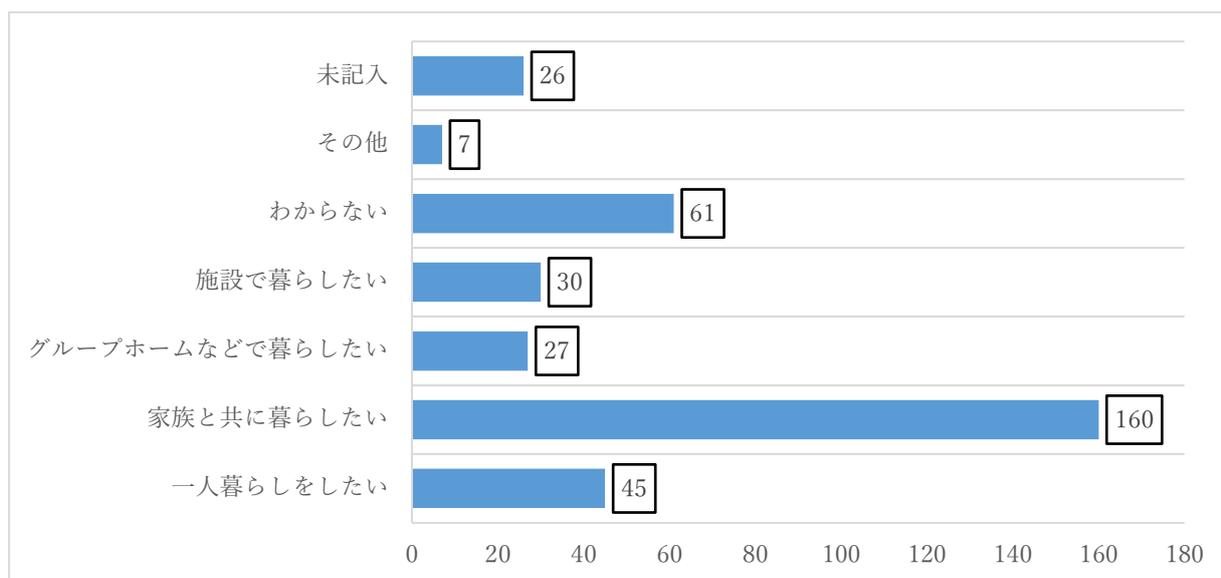
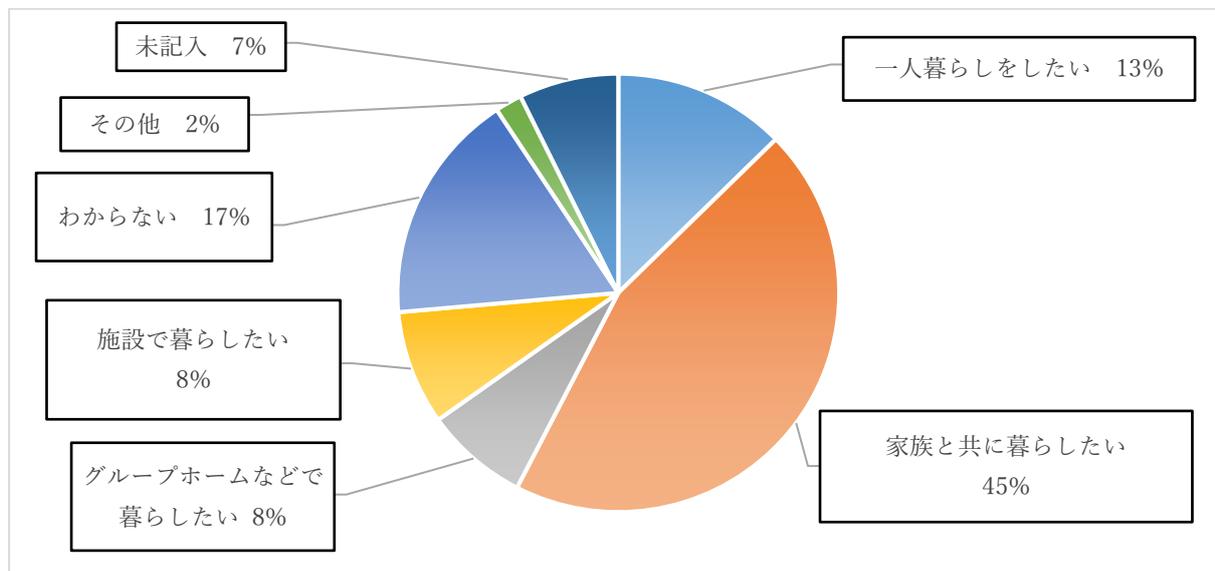
問2 あなたのお住まいの種類をお答えください



問3 あなたは誰と一緒に暮らしていますか



問4 あなたは今後どのように暮らしたいと考えていますか

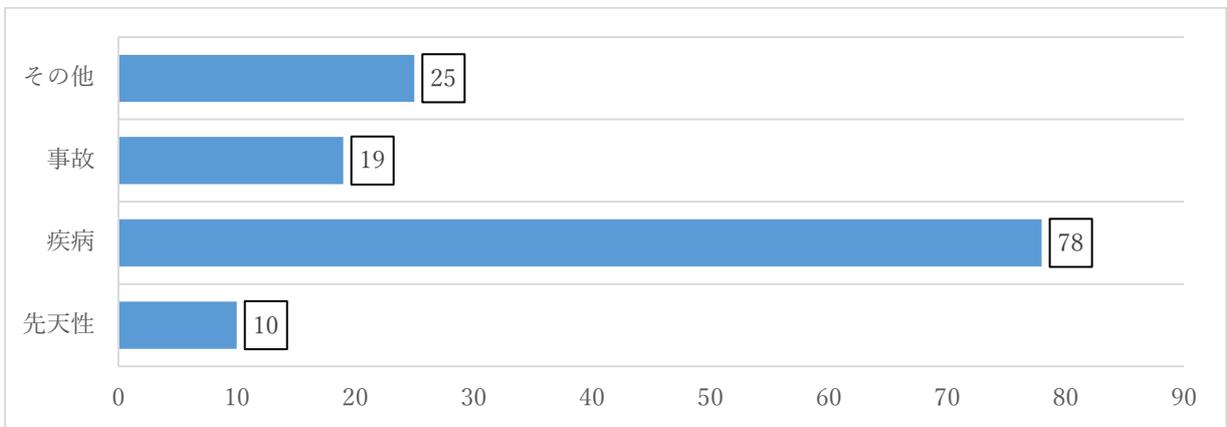
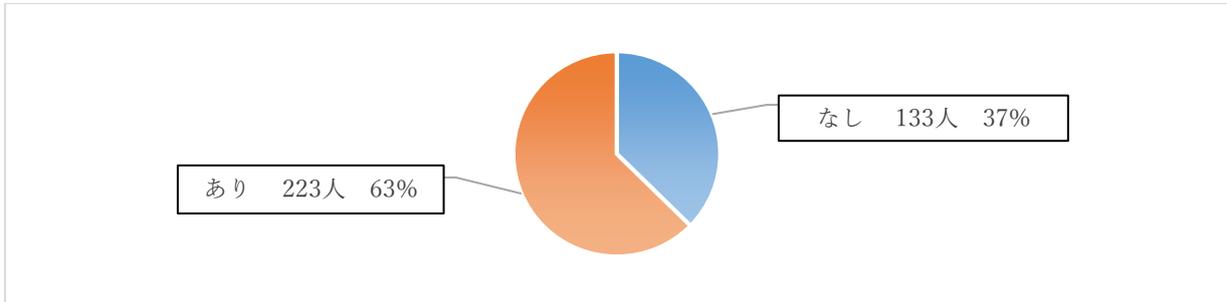


調査結果を見ると、圧倒的に「家族と共に暮らしたい」を選択された方が多い状況でした。

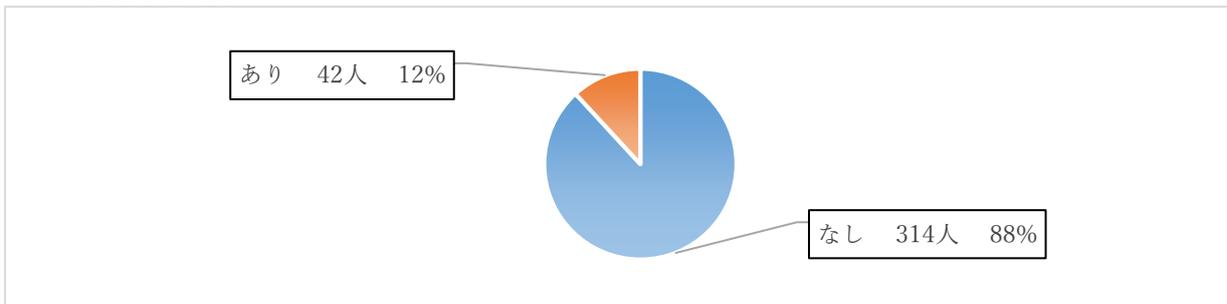
全国的に検討課題とされています「5080問題」（50歳の障がいのある子を80歳の親が支援する高齢化社会の課題）もあることから、障がいのある方本人の支援のほかに、家族に対する支援も課題であると考えます。

問5 あなたは次のいずれかの障がい者手帳をお持ちですか

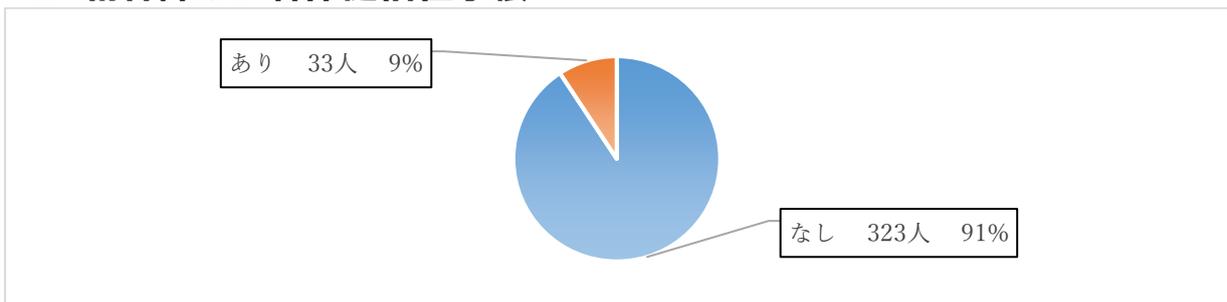
1 身体障がい者手帳



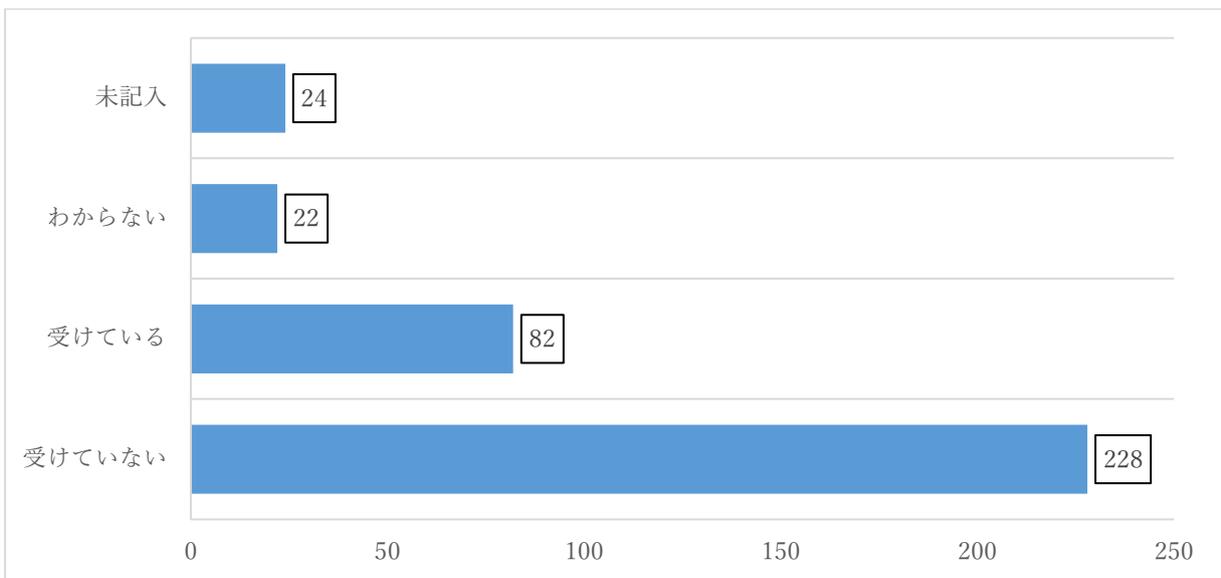
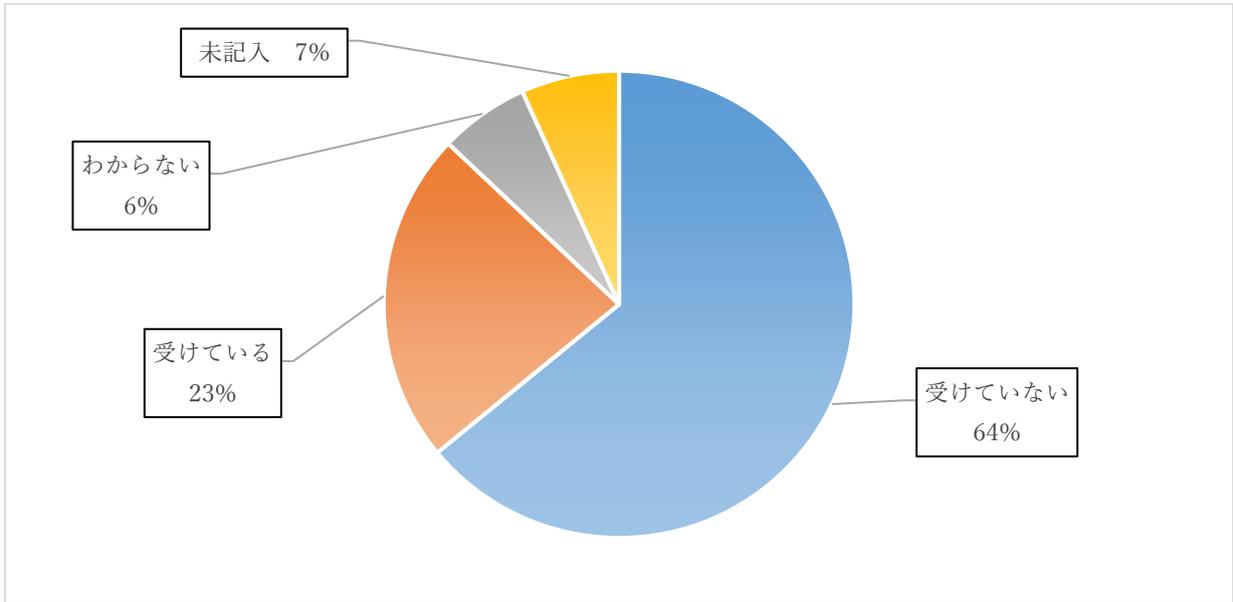
2 療育手帳



3 精神障がい者保健福祉手帳



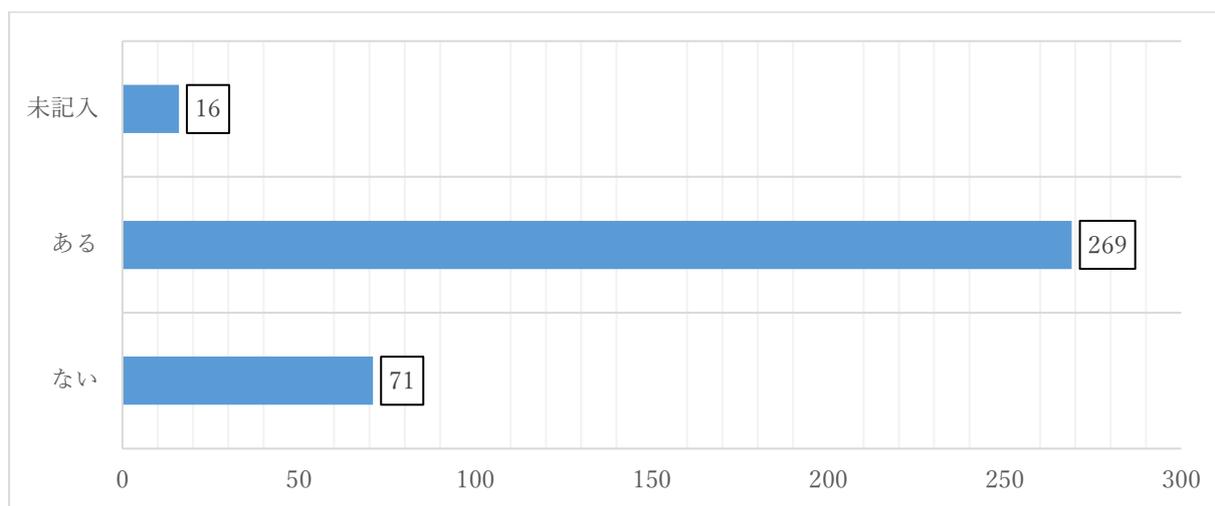
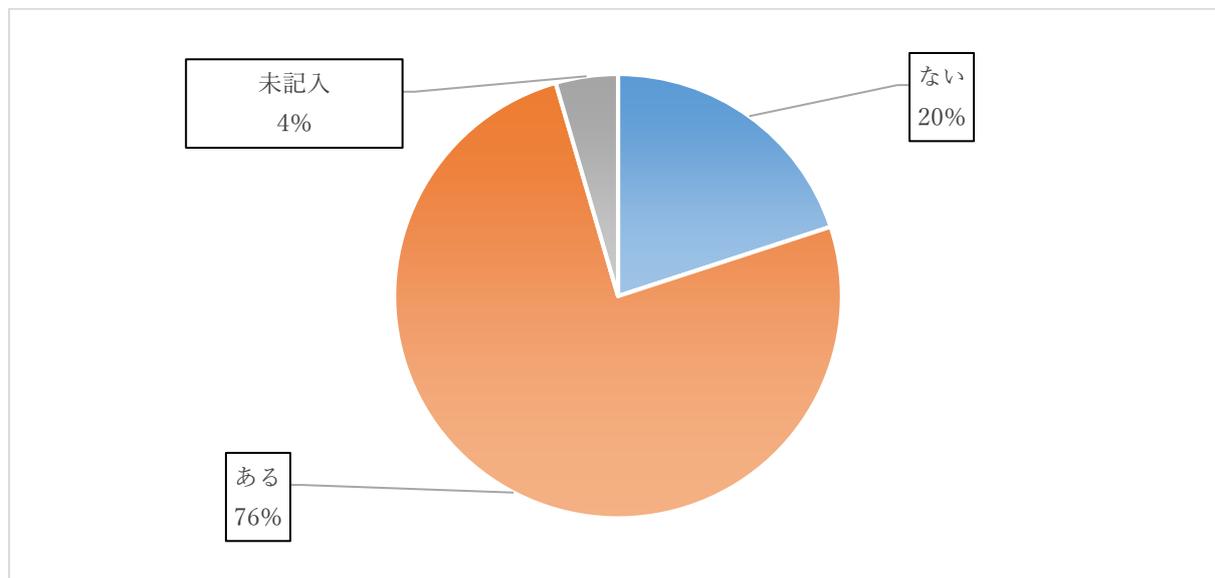
問6 あなたは介護保険の認定を受けていますか



高齢化率の高い本市においても、本アンケート回答者の約6割が介護保険の認定を受けていない状況にあります。

回答者の2割が介護保険の認定を受けており、今後増加した場合、障がい福祉サービスと介護保険サービスの共生を検討していく必要があります。

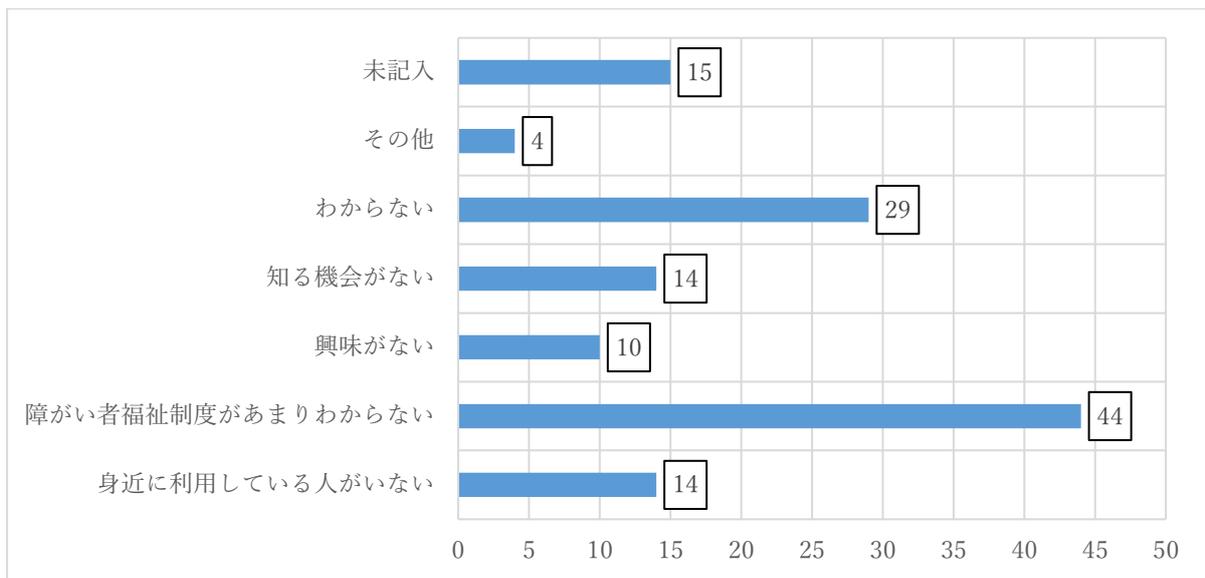
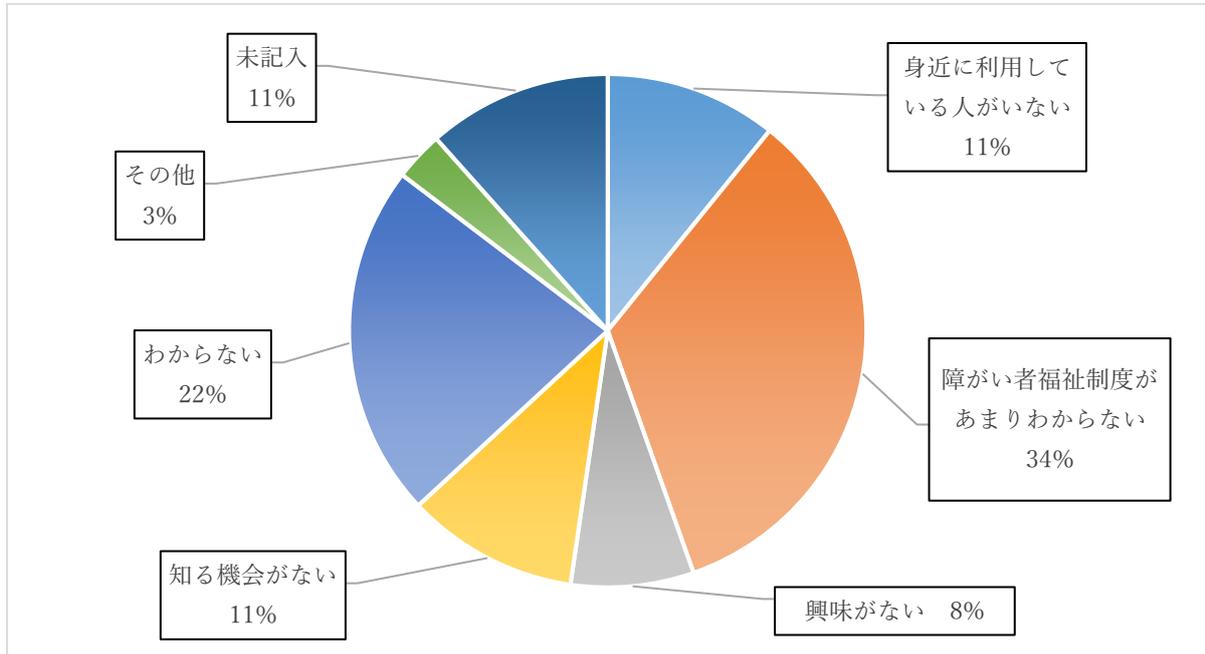
問7 あなたは障がい者福祉に関心がありますか



障がい者福祉に関心がある方は、76%となり多くの方が何らかの関心がある一方、20%の方が関心はないと回答されております。

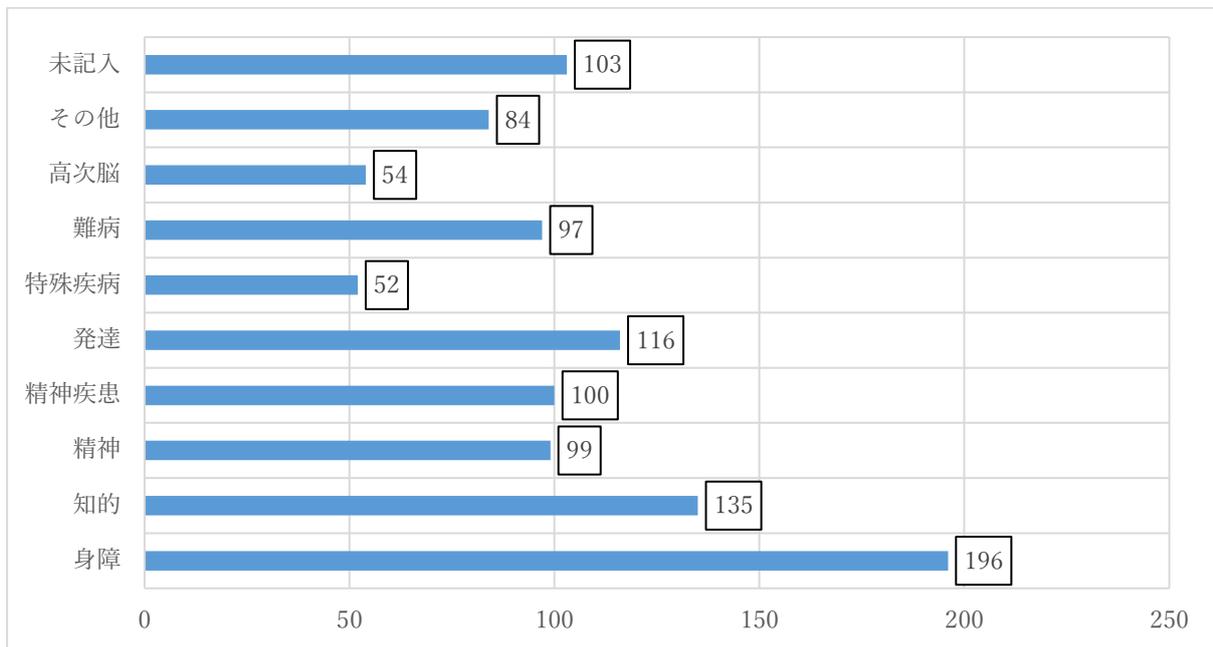
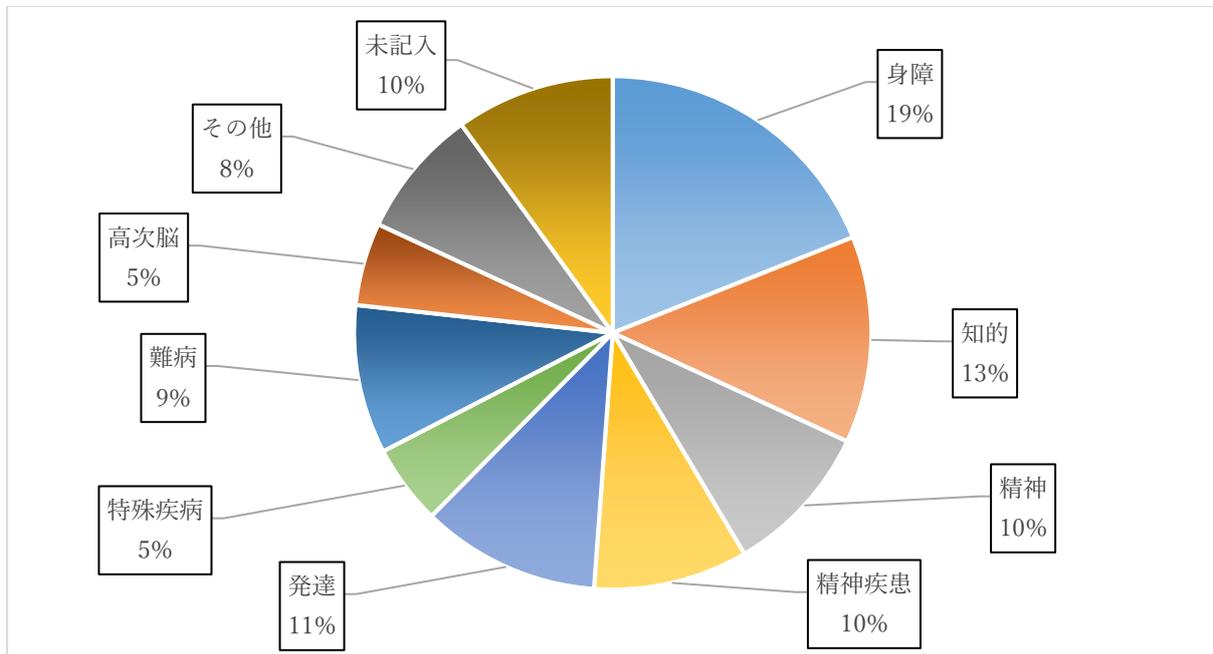
関心がないと回答された方の主な理由は、次ページに記載しております。

問8 問7で「関心がない」と答えた方の理由は何ですか

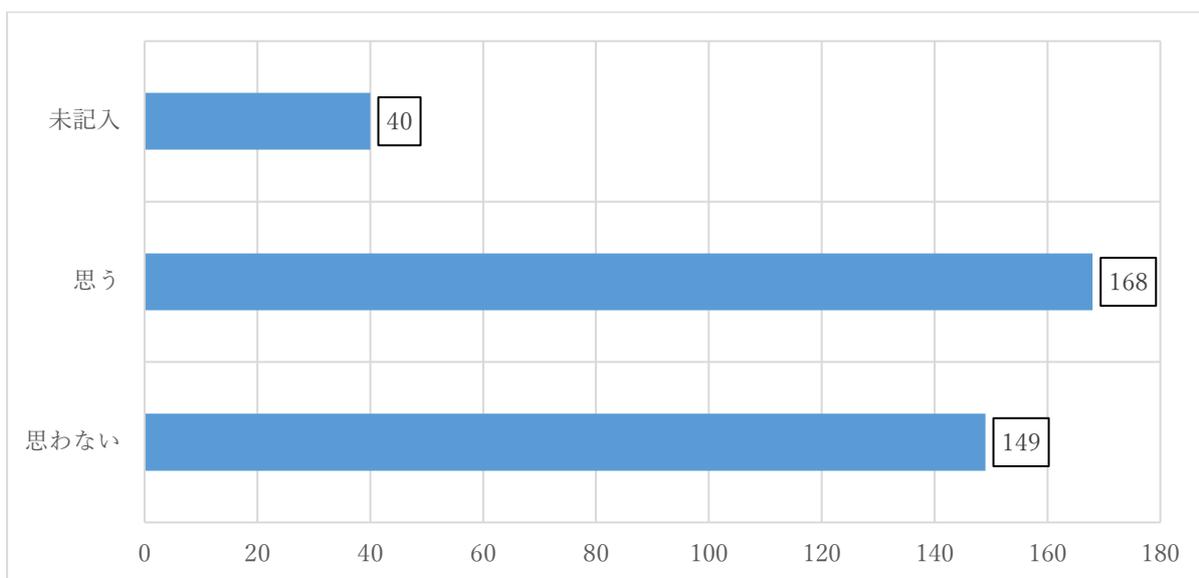
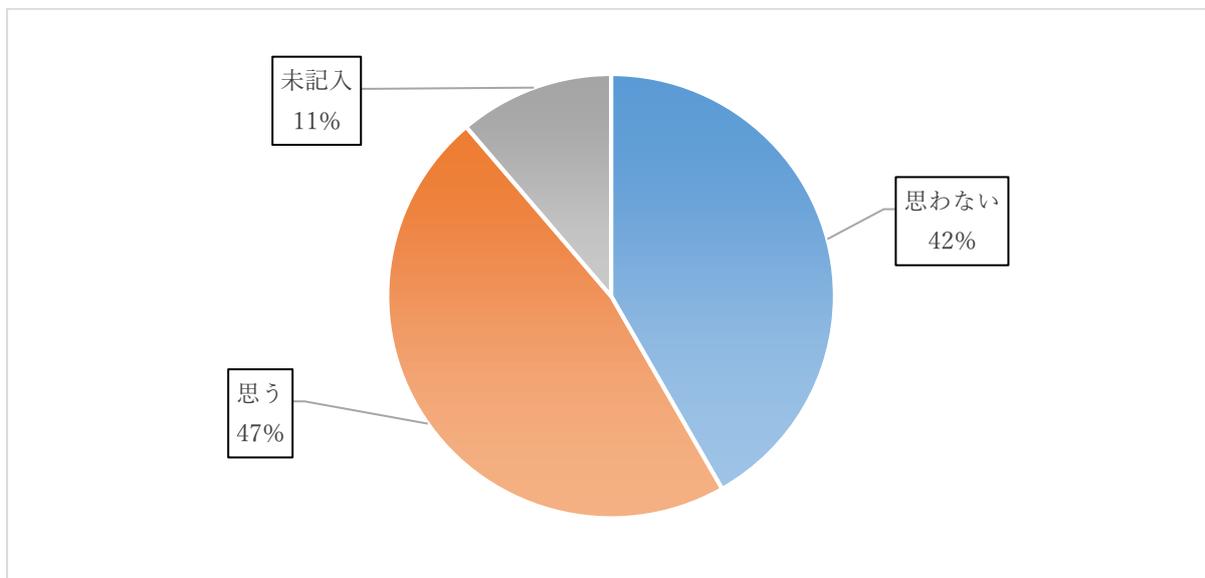


興味がないと答えた方の理由を大きく分けると、「制度がわからない」、「知る機会がない」、「わからない」と答えられた方が、67%であり、今後しっかりとした制度周知を行う必要があると感じられました。

問9 障がいのある方とは次のいずれかに該当する状態の方をいいますが、あなたが知っているもの全てを教えてください

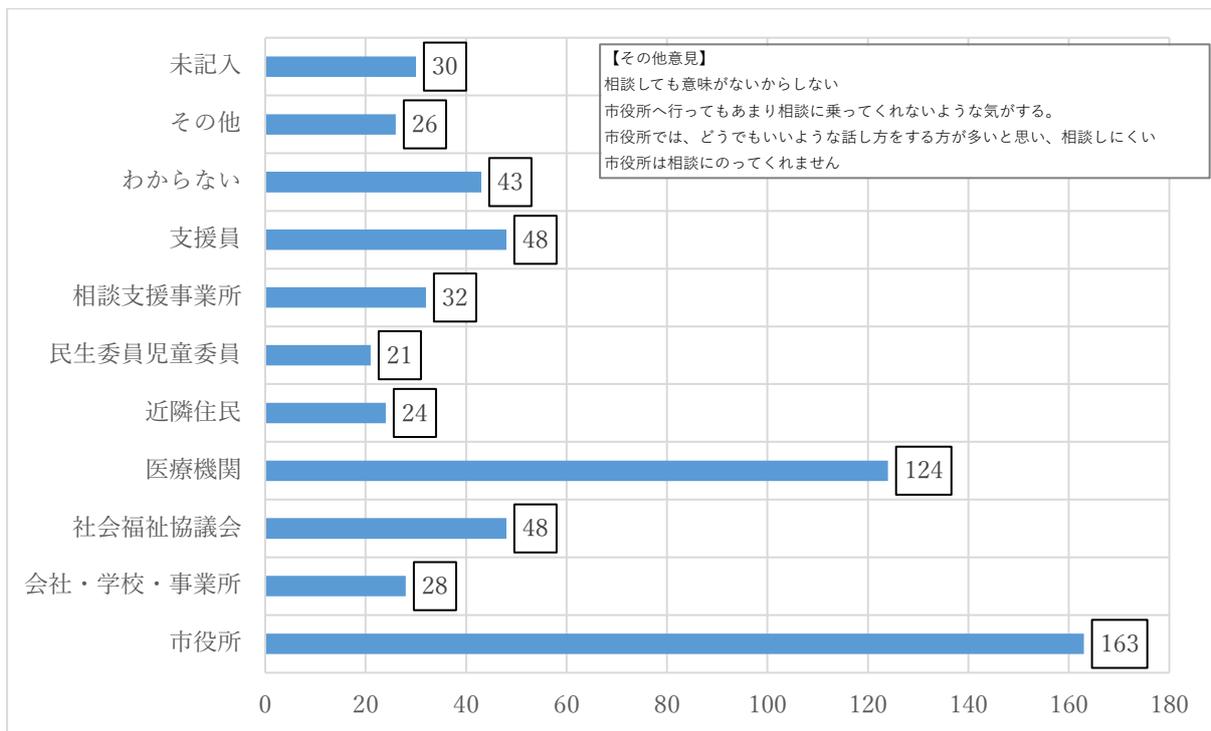
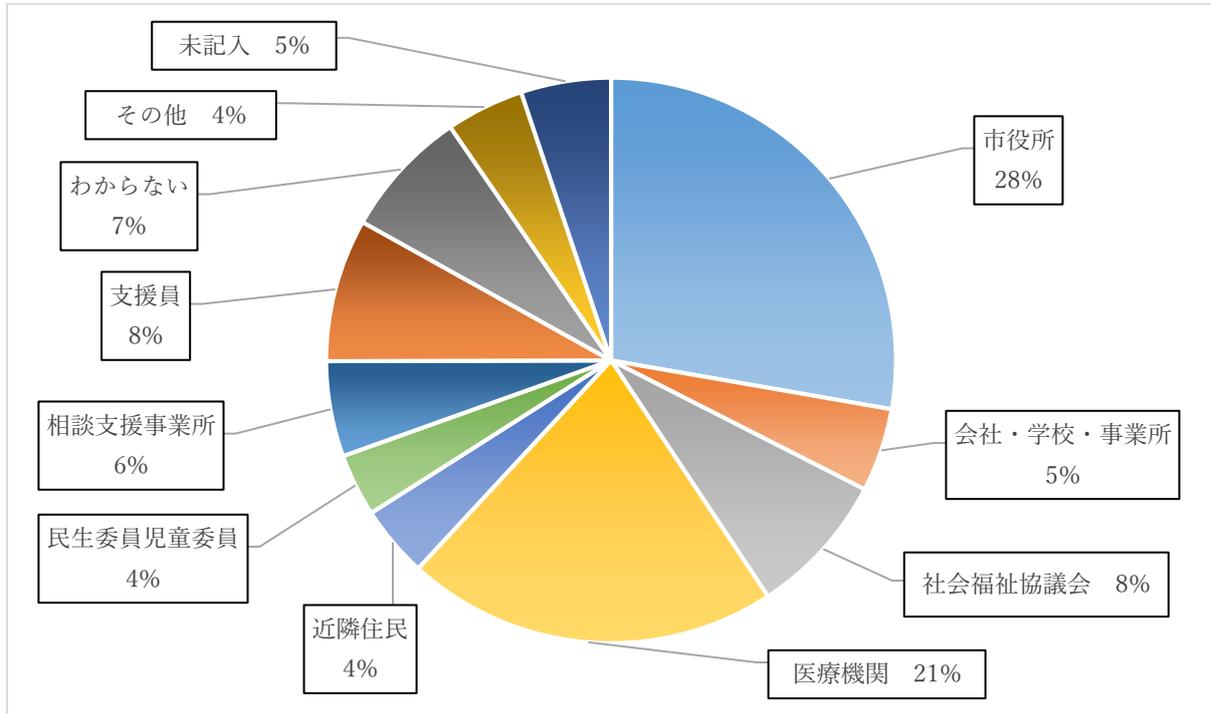


問10 「障がい」について学ぶ機会へ参加したいと思いませんか



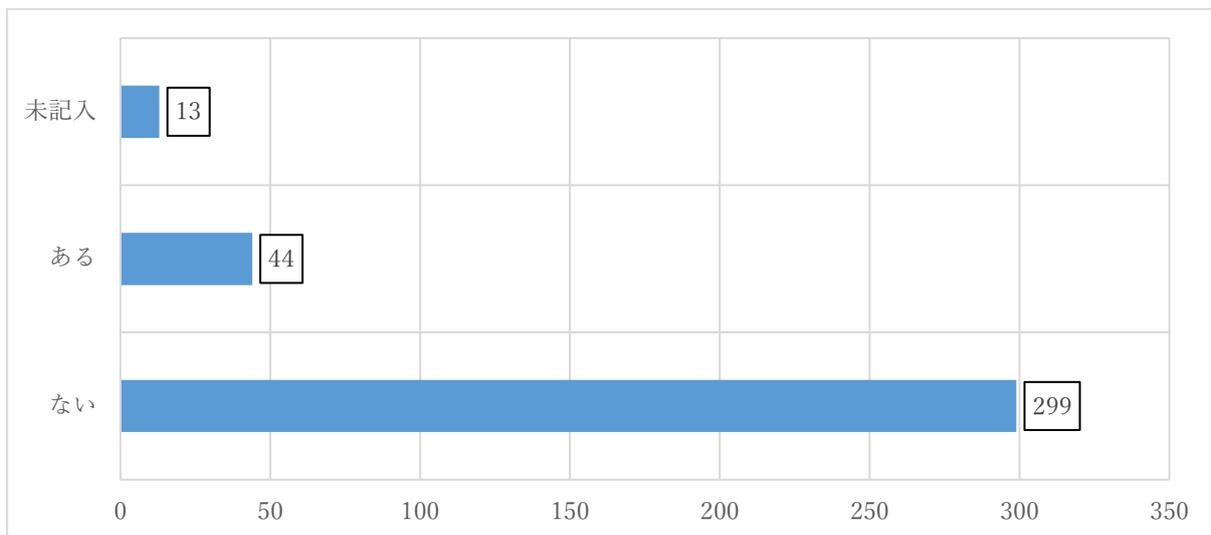
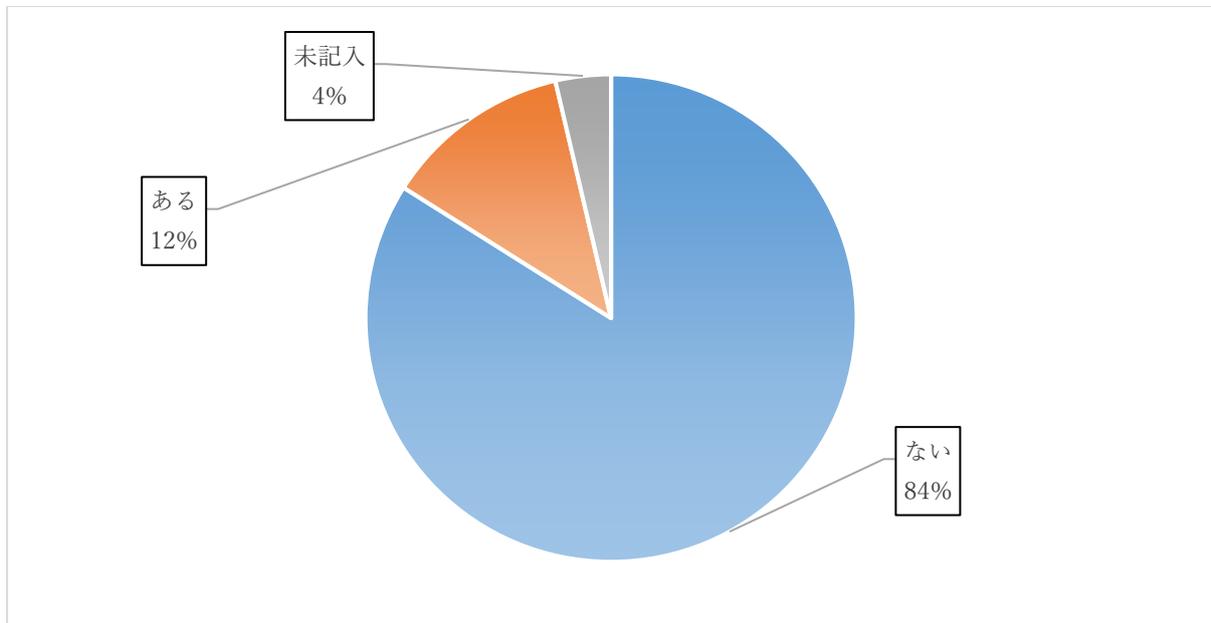
問7で「障がい福祉に興味がある」と回答された方が76%いましたが、「障がい」について学ぶ機会への参加をしたいと思う方は、47%となり、多種多様な制度周知方法、参加しやすい学習会の開催が求められていると考えます。

問11 あなたが普段の生活での困りごとを相談する場所について



圧倒的に「市役所」と「医療機関」が多く、回答の49%を占めております。
 相談に来られる方の相談内容をしっかり聴き取り、ワンストップ窓口対応ができるように努めていく必要があります。

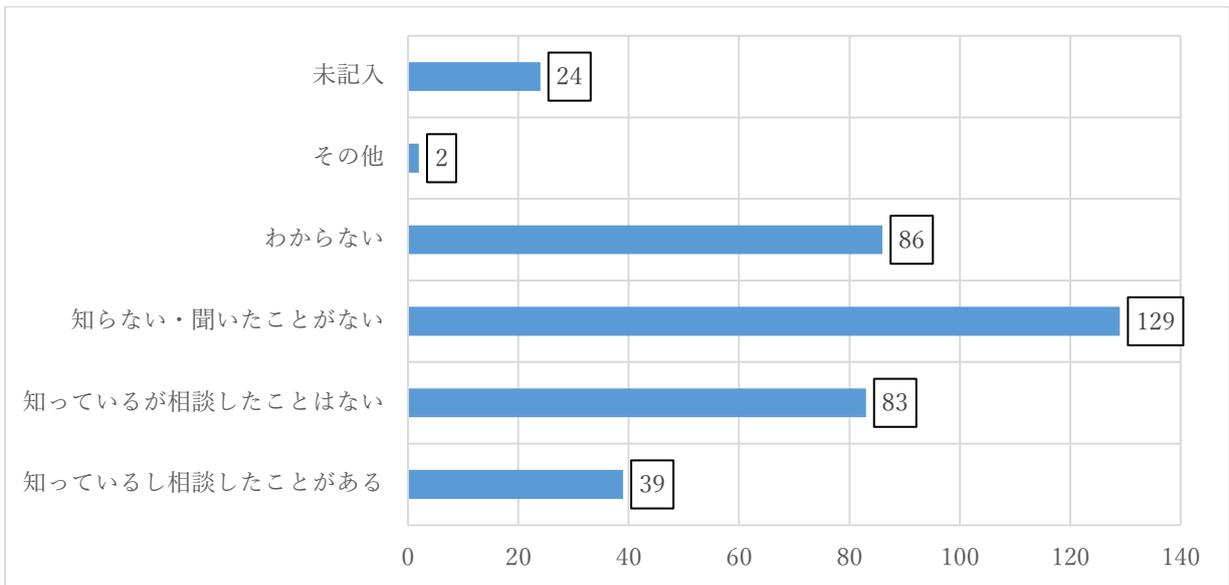
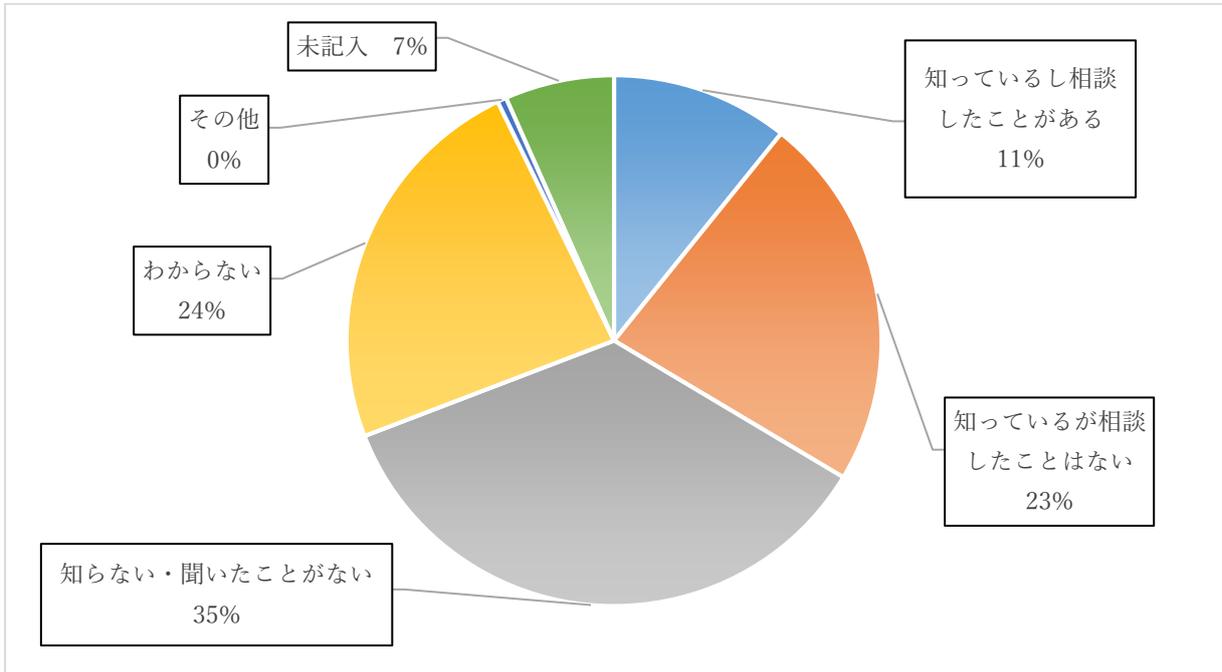
問12 芦別市が設置する日常生活や社会生活に係る相談窓口を利用したことがありますか



市が設置する相談窓口について、利用したことがあると回答された方は12%と低い状況となっております。

平成28年度より設置しておりますが、相談内容がデリケートな場合もあることから、対応については十分に配慮する必要があり、障がいのある方本人またはその支援する方、地域住民の方など、誰でも相談できる場としてより透明性がある相談の場としての周知が必要と考えます。

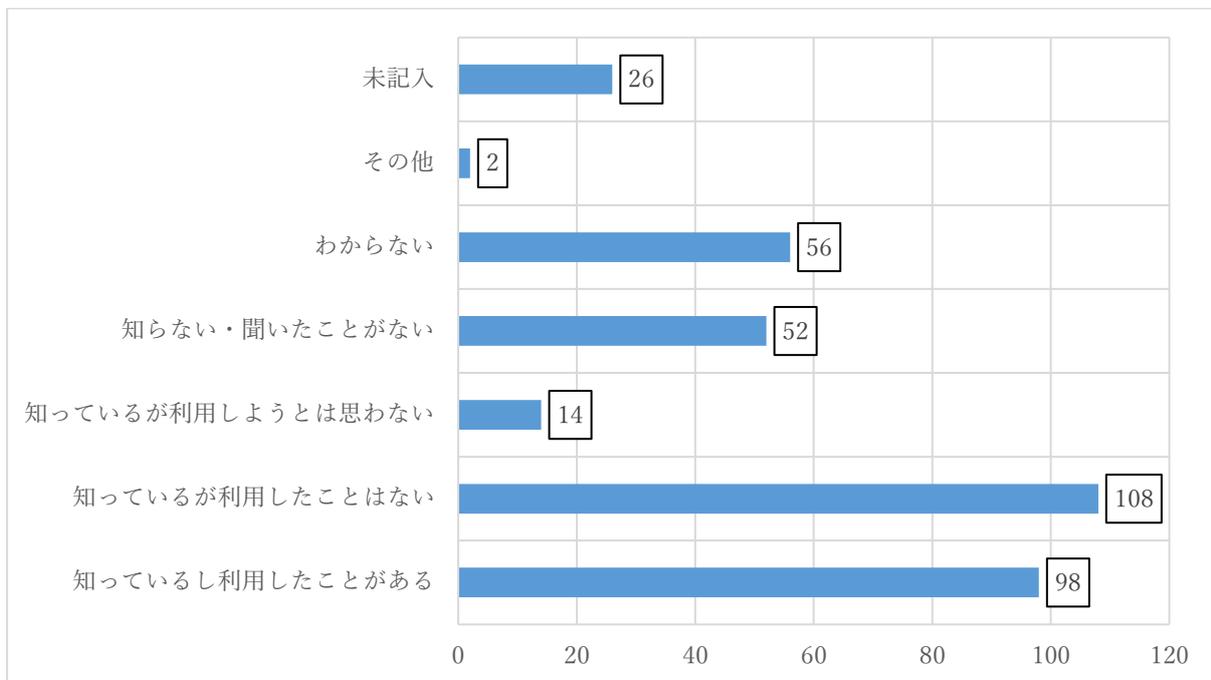
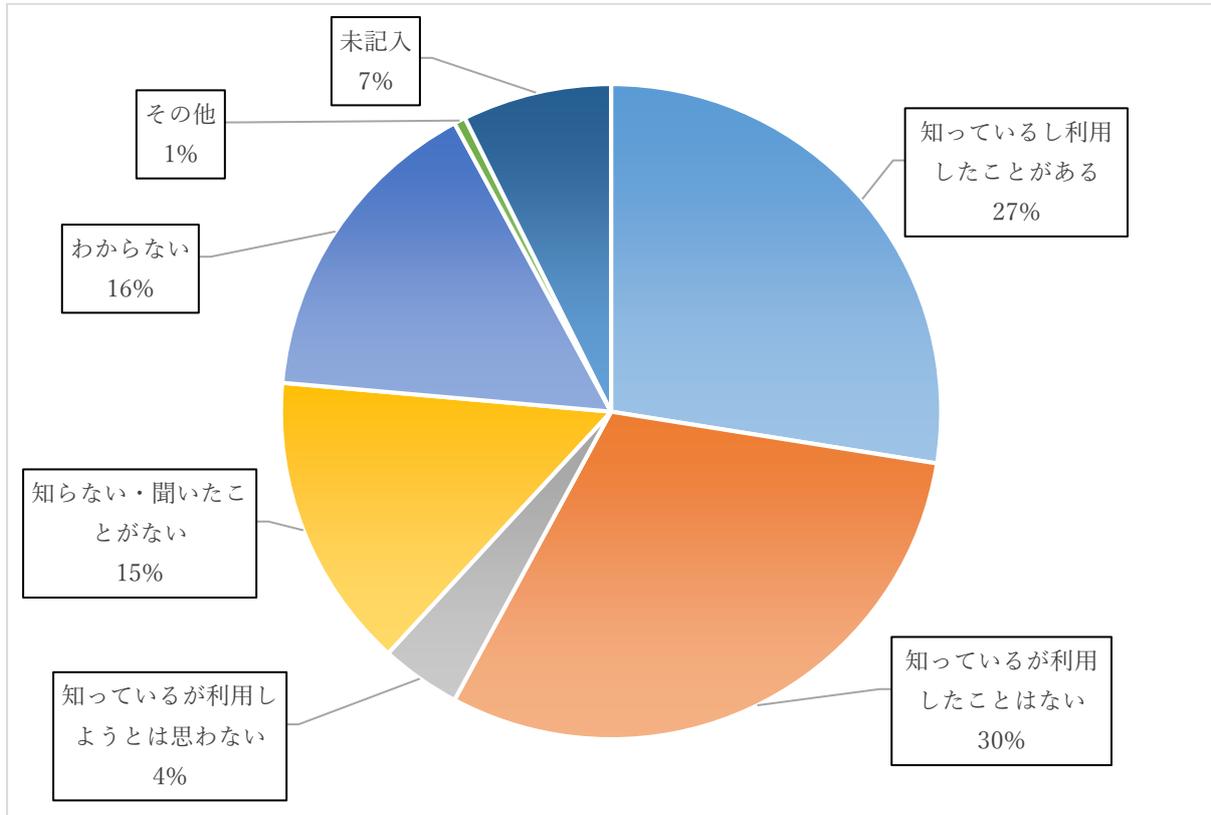
問13 身体・知的障がい者相談員について



市が任命する相談員は、各1名ずつ計2名の方が相談を承っておりますが、「知らない・聞いたことがない」、「わからない」と回答された方が59%であり、あまり広く知られていない現状であることがわかりました。

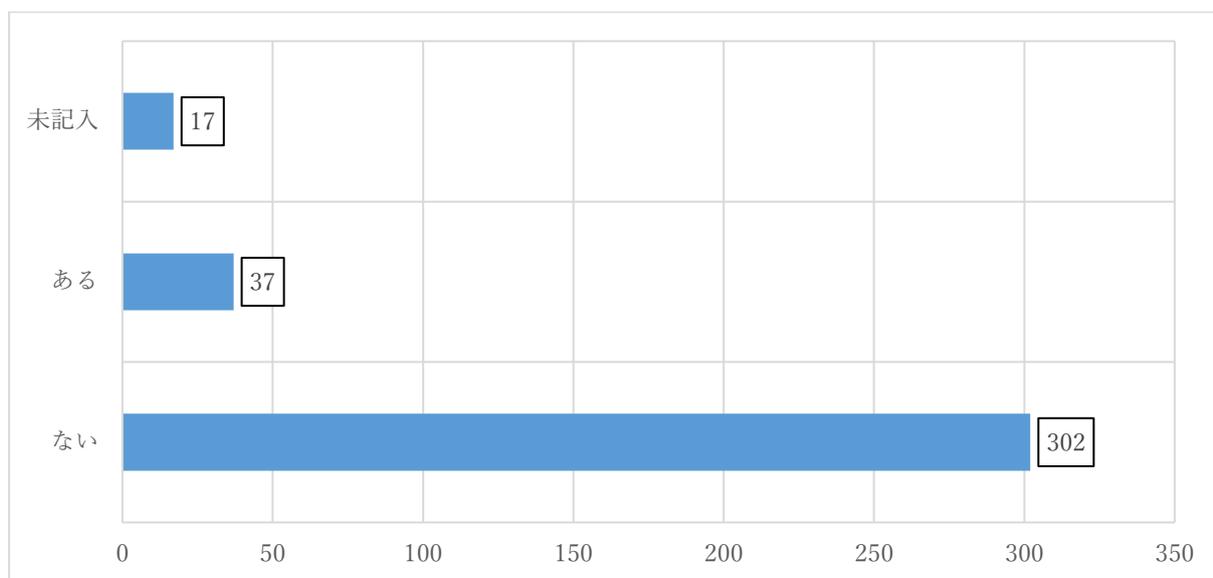
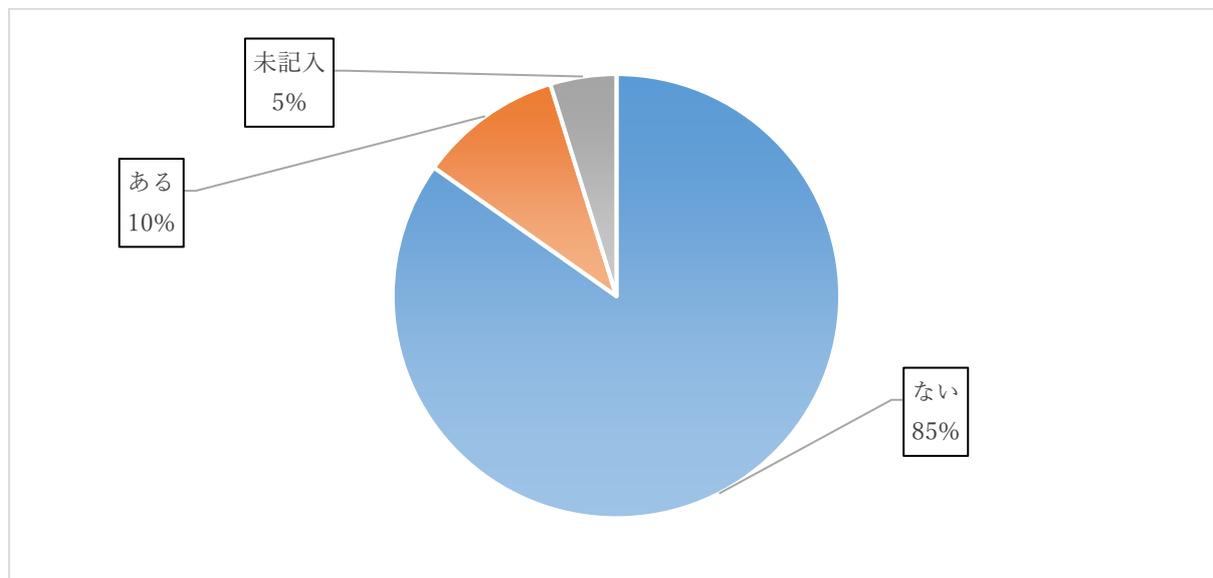
今後の課題としては、障がいのある方と支援される方を始め、多くの市民の方に活動を知ってもらえるような周知が必要であると考えます。

問14 障がいのある方が利用できる福祉サービス制度について



障がいのある方が利用できる福祉サービスは多々ありますが、アンケート回答者の半数以上が「知っている」という状況であり、今後も相談窓口での周知、関係機関と連携した必要なサービスの提供が求められると考えます。

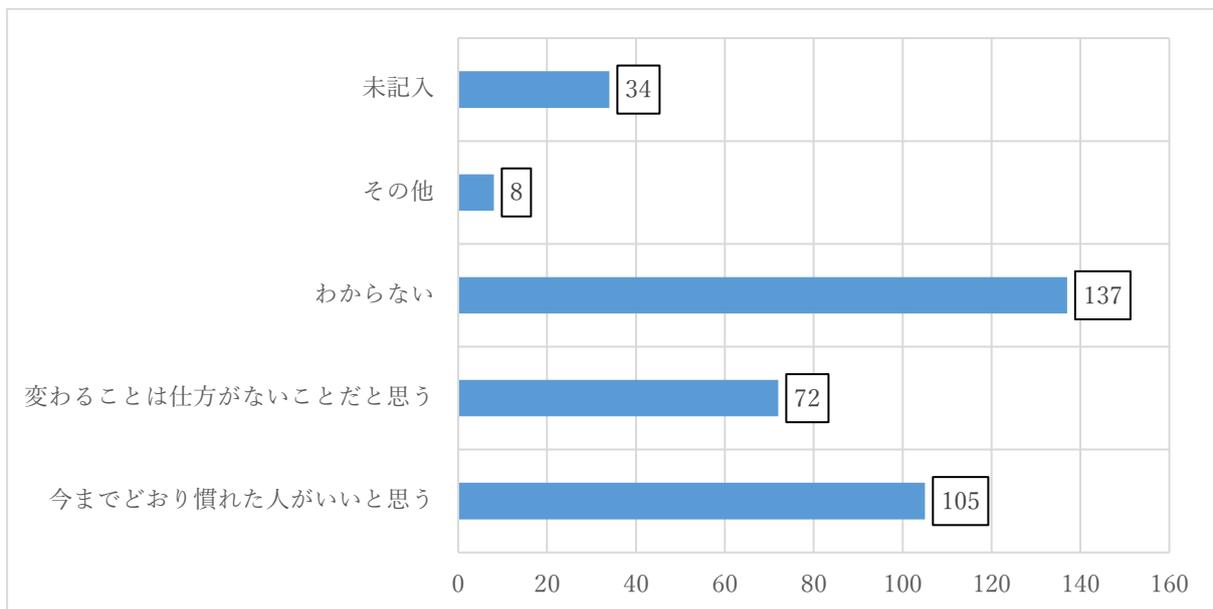
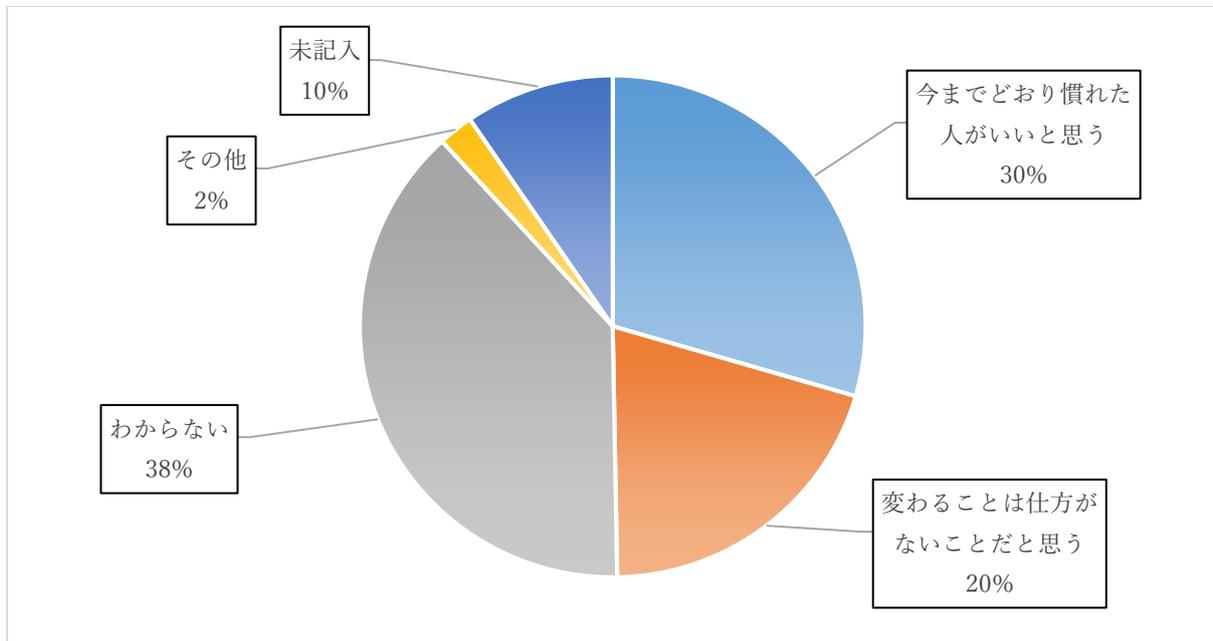
問15 あなたは共生型サービスという言葉を知っていますか



介護保険又は障がい福祉のいずれかのサービスの指定を受けている事業所が、もう一方の制度のサービスの指定を受けやすくなる「共生型サービス」が平成30年4月1日から設定され、65歳到達時に障がい福祉サービスから介護保険のサービスに切り替えが生じた際、利用される方を十分に理解している同じ支援員、同じ事業所を引き続き利用できるようにするものです。

制度としては月日が浅く、利用可能条件に制限もあることから、今後利用される方が増加することを視野に、十分な周知活動が必要と考えます。

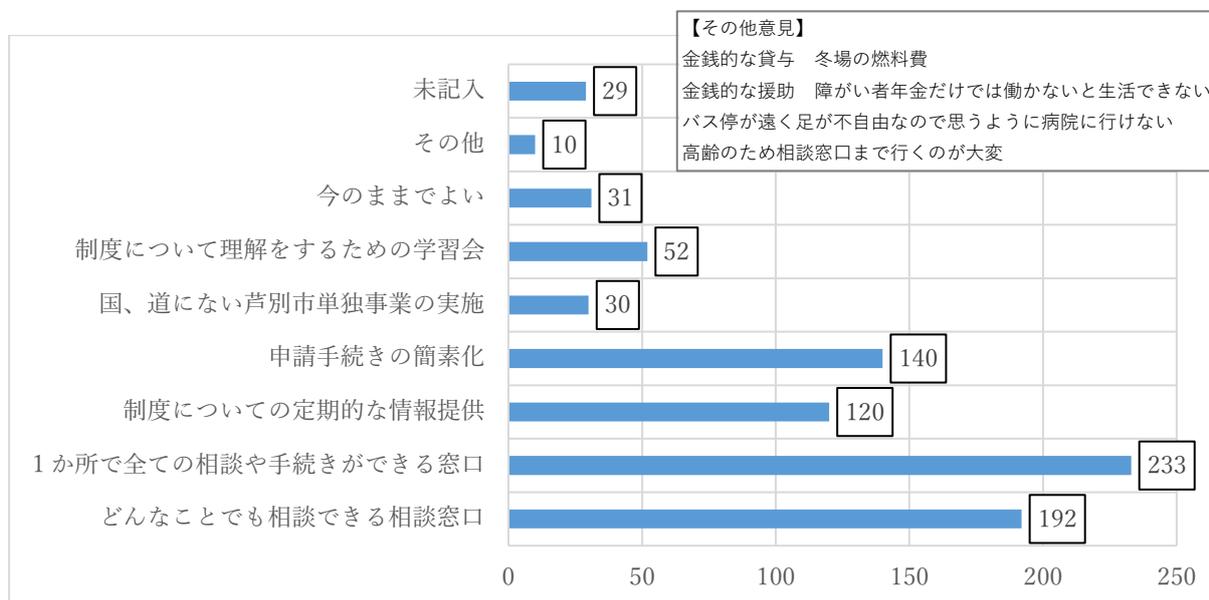
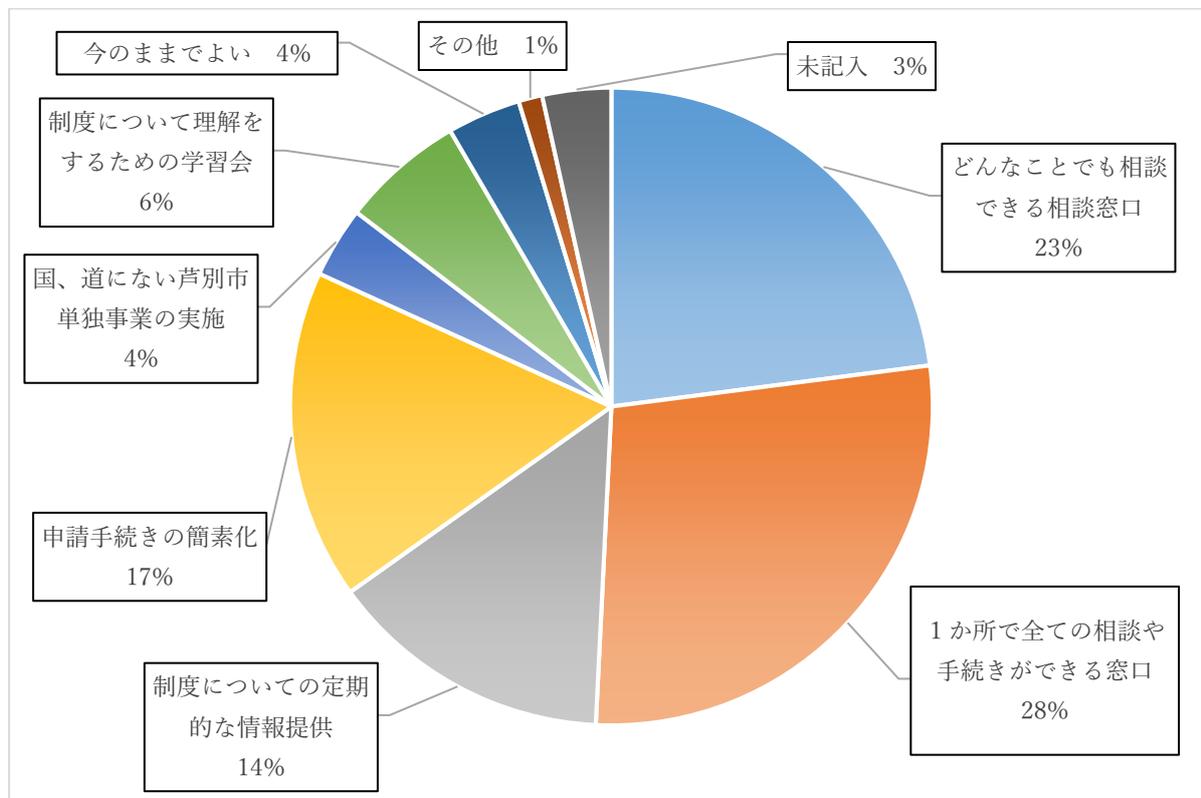
問16 65歳到達により介護保険制度へ移行した場合、在宅サービスの担当支援員を変更されることについてどう思いますか



問15の内容についての付属質問となりますが、回答が大きく分かれる結果となりました。

いただいたご意見の中に、「アセスメントを行ってほしい」、「支援員の引継ぎをしっかりとってほしい」など、サービスを決定するものと提供するものの説明を求める意見がありましたので、決定時は情報共有と連携が必要と考えます。

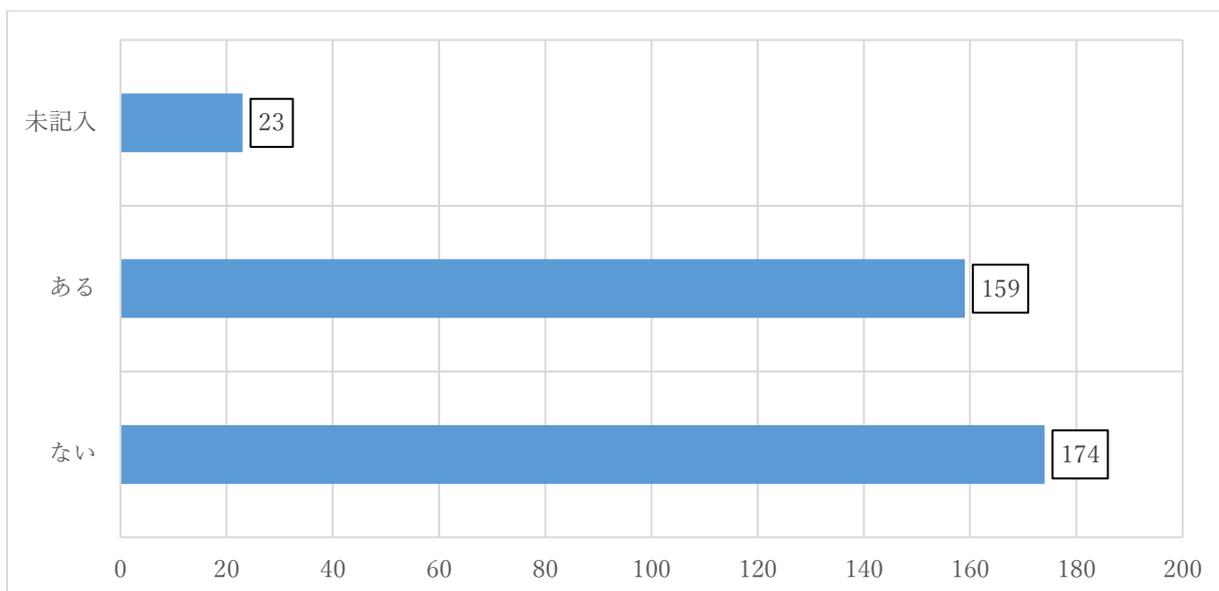
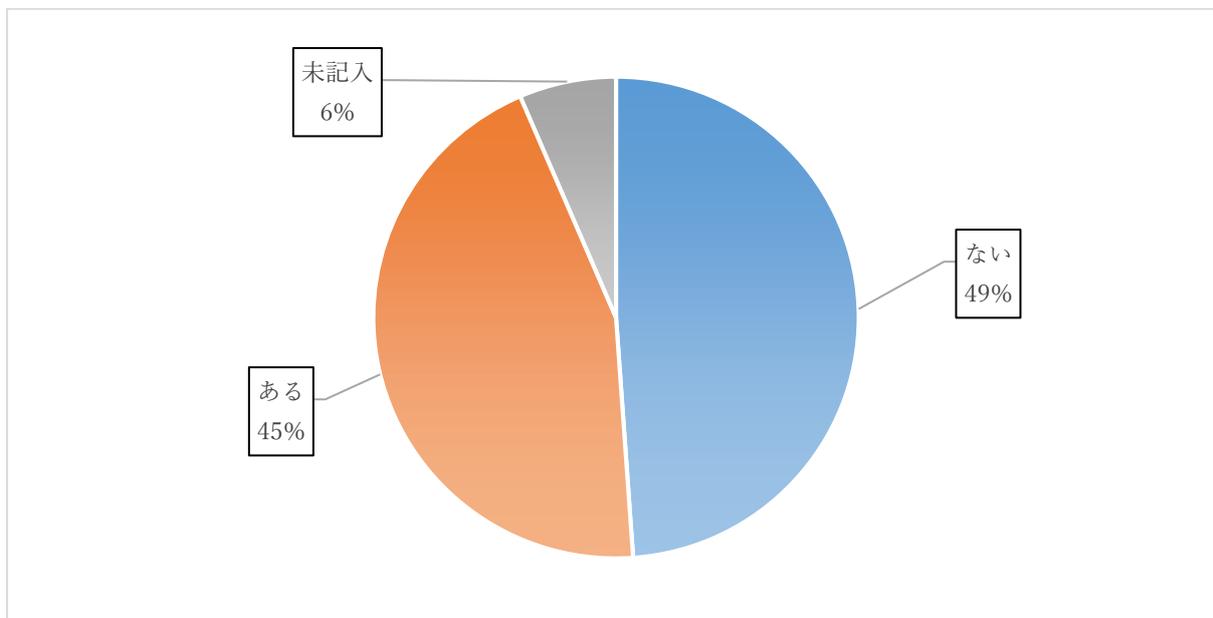
問17 現在の福祉サービスを充実させるために必要だと思うことについて



多くの回答者は「1か所で全ての相談や手続きができる窓口」を希望し、次いで「どんなことでも相談できる相談窓口」となり、相談を受ける側の知識と経験、他の機関との連携が求められる結果となりました。

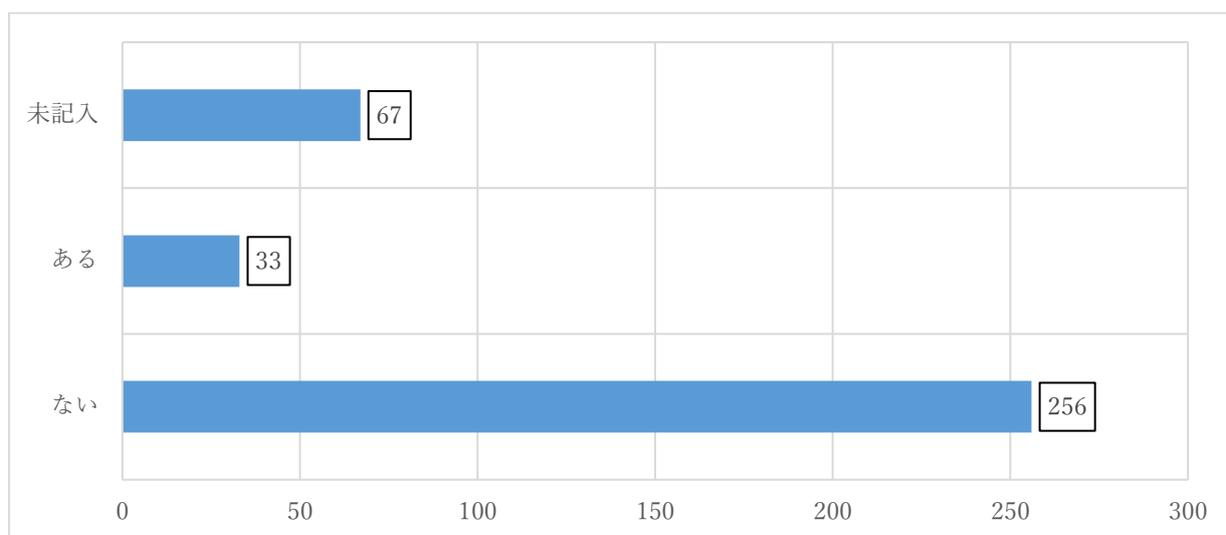
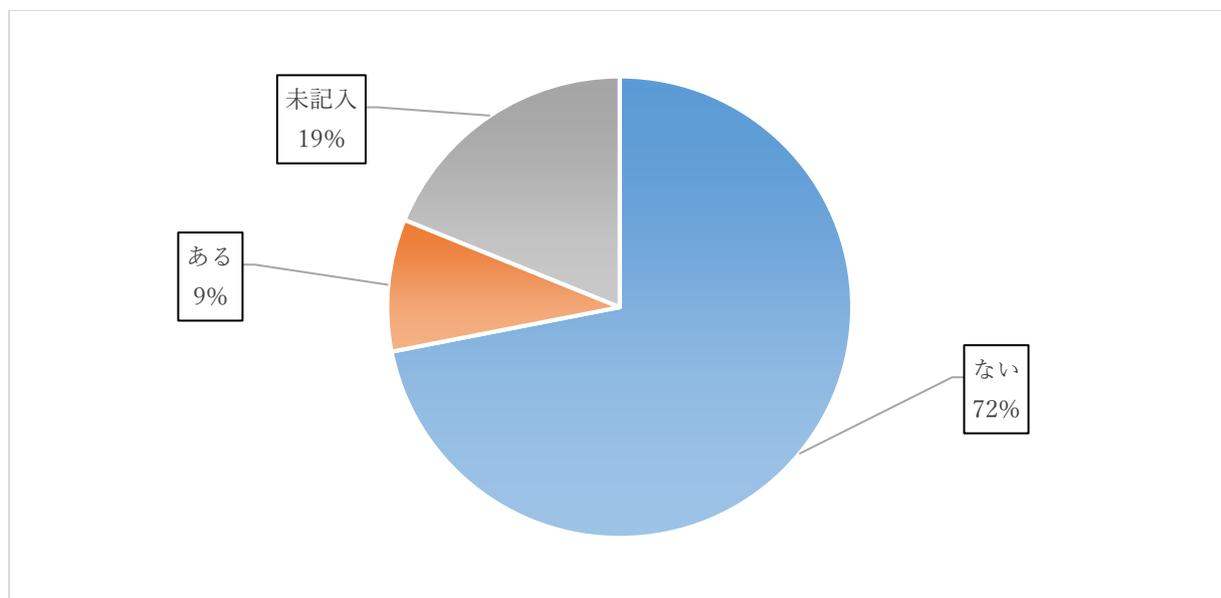
他の機関と連携することは、サービス等を提供していくうえで不可欠なものとなりますので、プライバシーや個人情報の保護を徹底したうえでの情報共有・提供が必要であると考えます。

問18 芦別市が実施する健診等を受診したことがありますか



アンケート回答者の市が実施する健診等の受診率は、45%となりました。
疾病の早期発見・早期治療のためにも、受診率を向上させる継続した周知活動が必要と考えます。

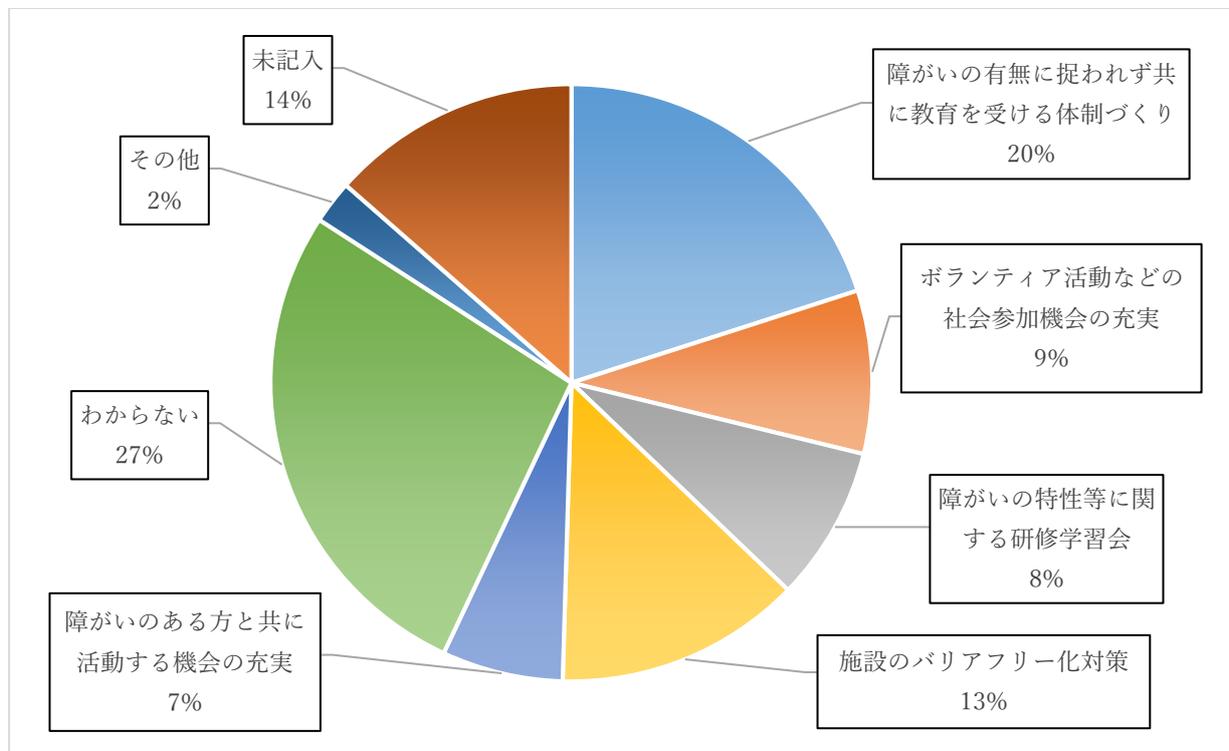
問19 芦別市が実施する健診等を受けたことで障がいの早期発見・治療に繋がったことはありますか



市が実施する健診により、障がいの早期発見・早期治療に繋がった方が全体の9%であり、少なからず33人の方の支援に寄与できたものと思われます。

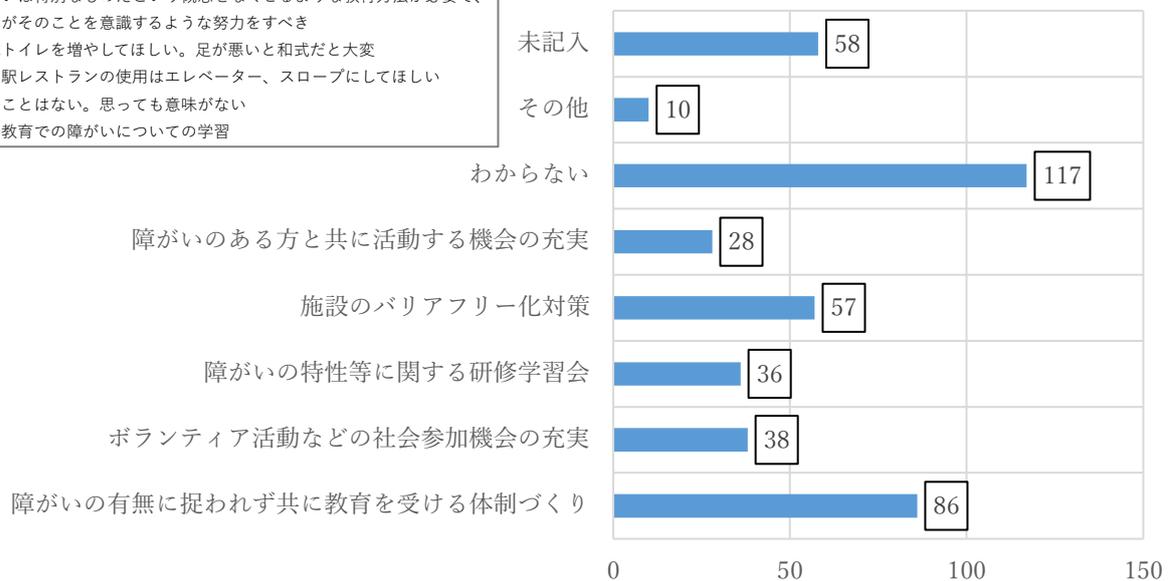
継続した支援を行うことが、市民の健康増進に繋がるものと考えます。

問20 障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合う社会の実現に必要と思うことについて



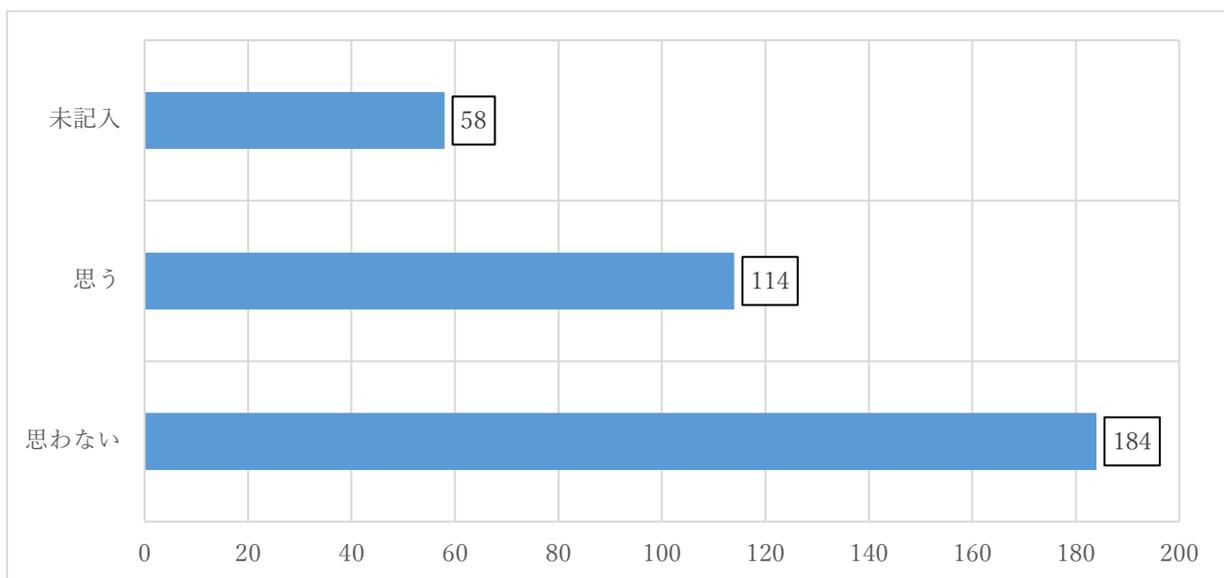
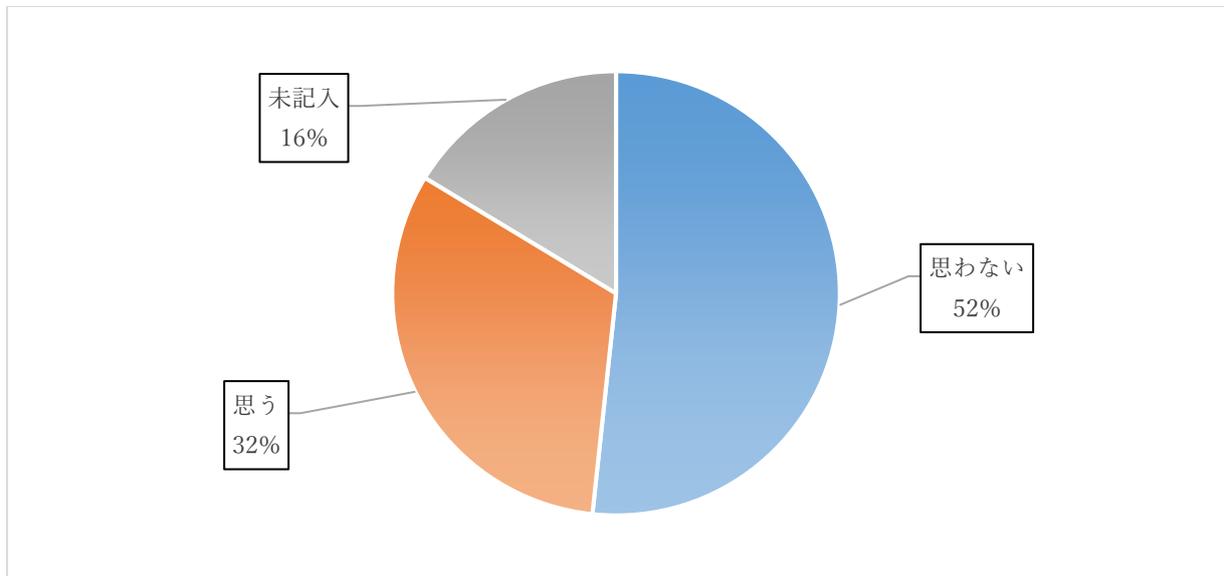
【その他意見】

障がいの有無で分けるべき
障がいは特別なものだという概念をなくせるような教育方法が必要で、国民がそのことを意識するような努力をすべき
洋式トイレを増やしてほしい。足が悪いと和式だと大変
道の駅レストランの使用はエレベーター、スロープにしてほしい
思うことはない。思っても意味がない
義務教育での障がいについての学習



障がいのある方とない方が共に生活するうえで必要な支援等について、アンケート回答内容をもとに、今後の相談支援体制等を充実させ、必要とする支援が行われる体制づくりが必要と思われます。

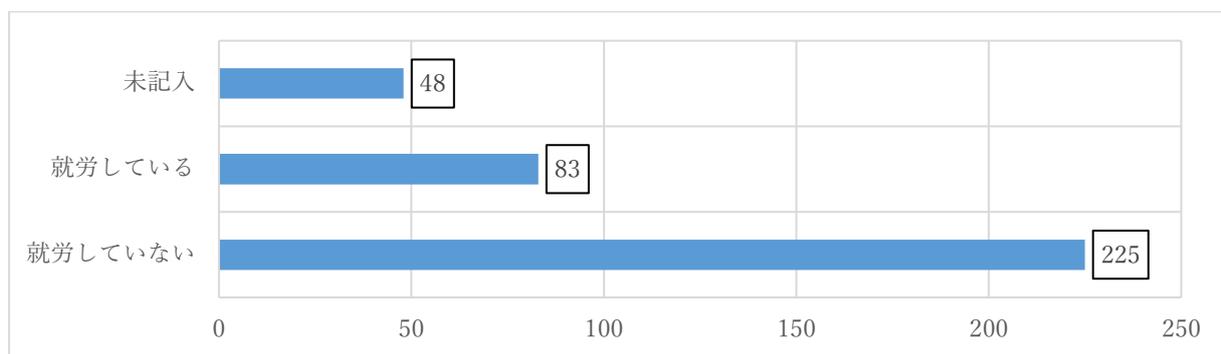
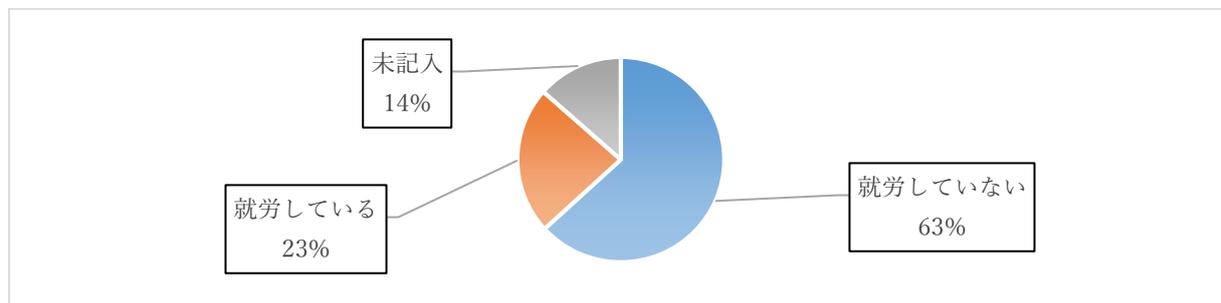
問21 障がいのある方と共にボランティア事業などの社会参加できる場へ参加したいと思いますか



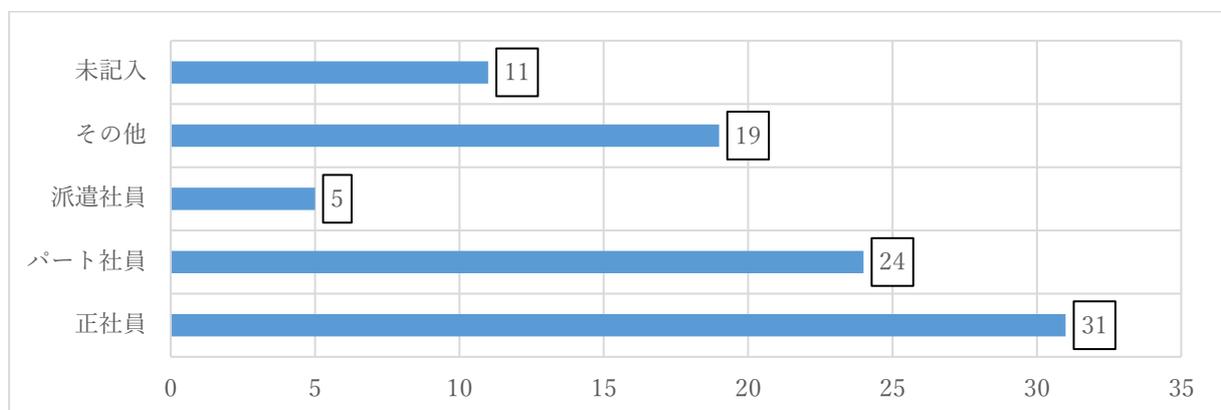
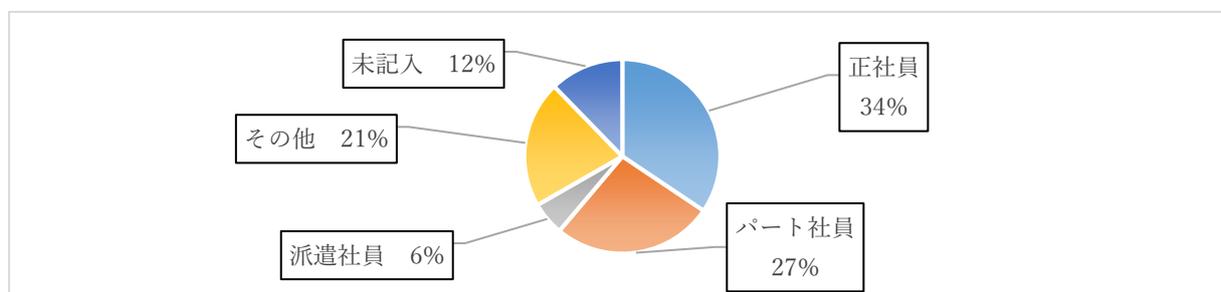
問20において半数以上の回答者が何かしらの支援等が必要と回答されておりましたが、障がいのある方と共に活動する場について、参加希望される方は全体の3割程度となり、思うことと行動に差が生じている結果となりました。

障がいのある方とない方が分け隔てられることなく共に生活する社会の実現の第一歩としても、共に活動する機会の重要性を周知する必要があると思われます。

問22 現在の就労について

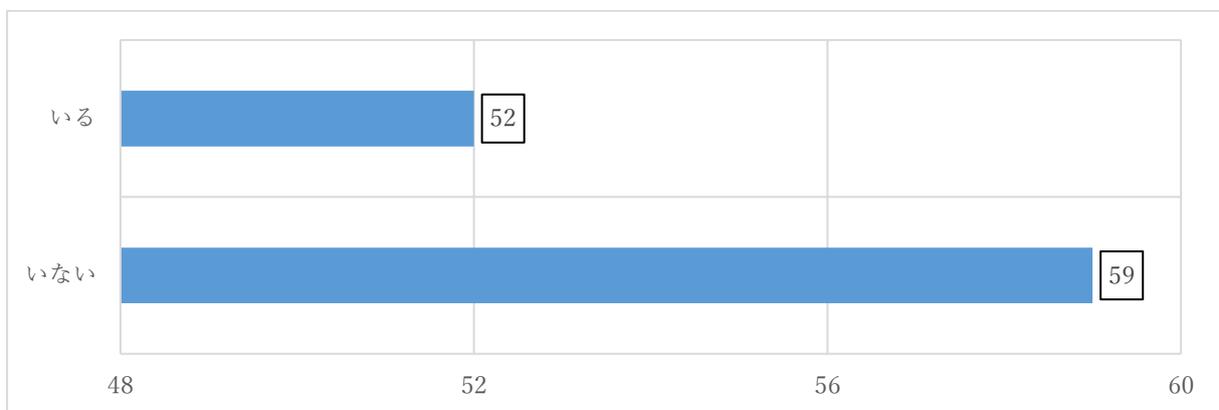
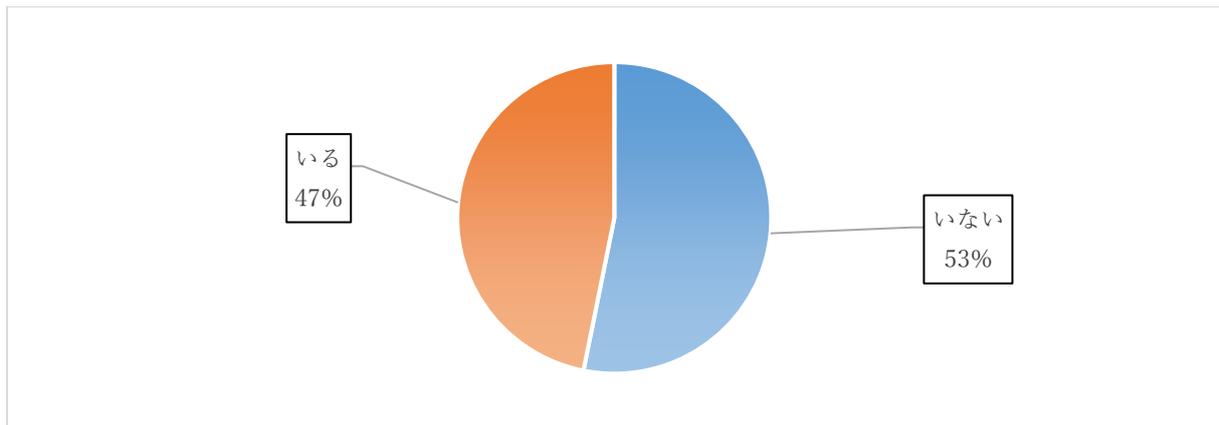


就労している場合の雇用形態について



本アンケート回答者の就労状況については、上記のとおり23%の方が就労していると回答され、そのうち21%の方が福祉的就労をされていました。

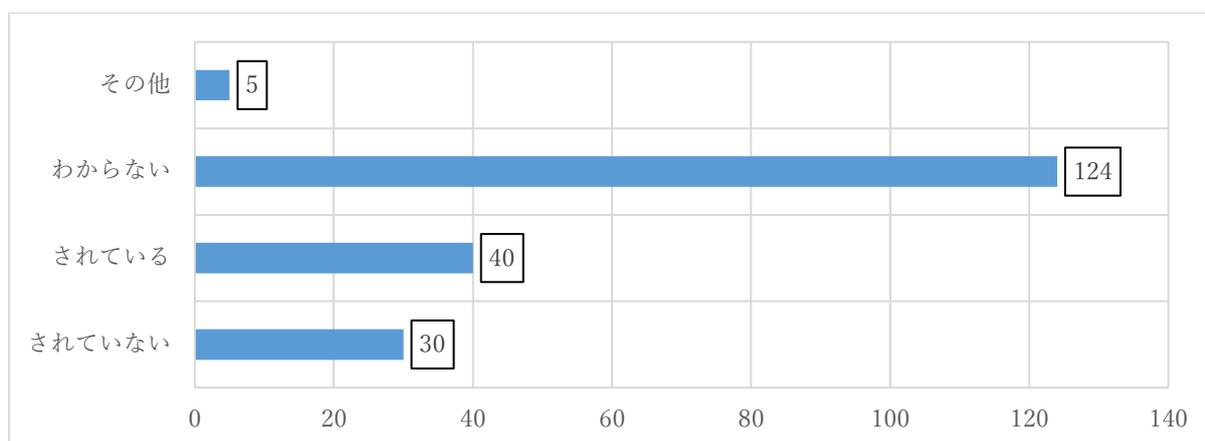
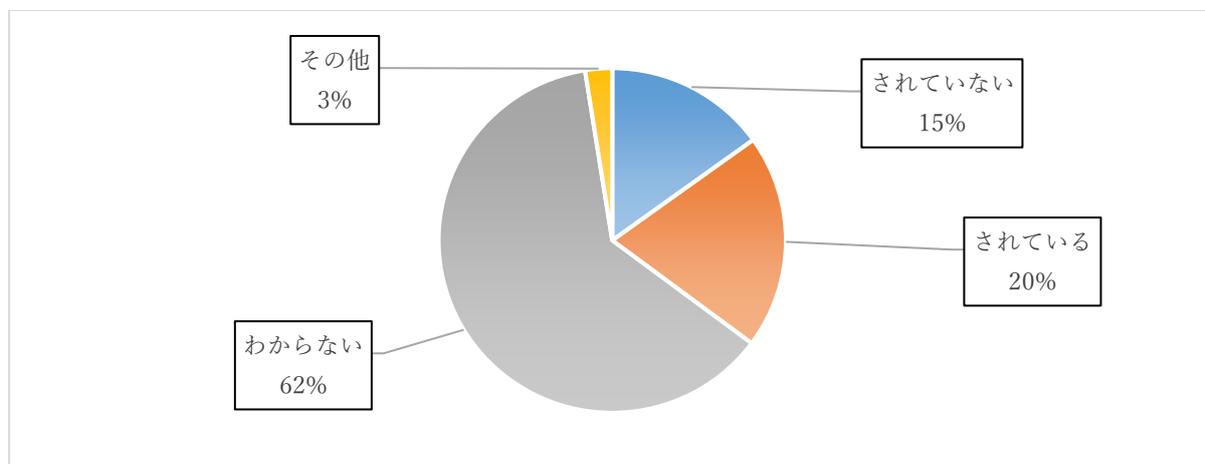
問23 就労している場所で障がいのある方はいますか



問22で就労していると回答された方のうち、障がいのある方が就労場所にいると回答された方は47%という結果でしたが、いないと回答された中には、「いるかわからない」と付記されている方もおりました。

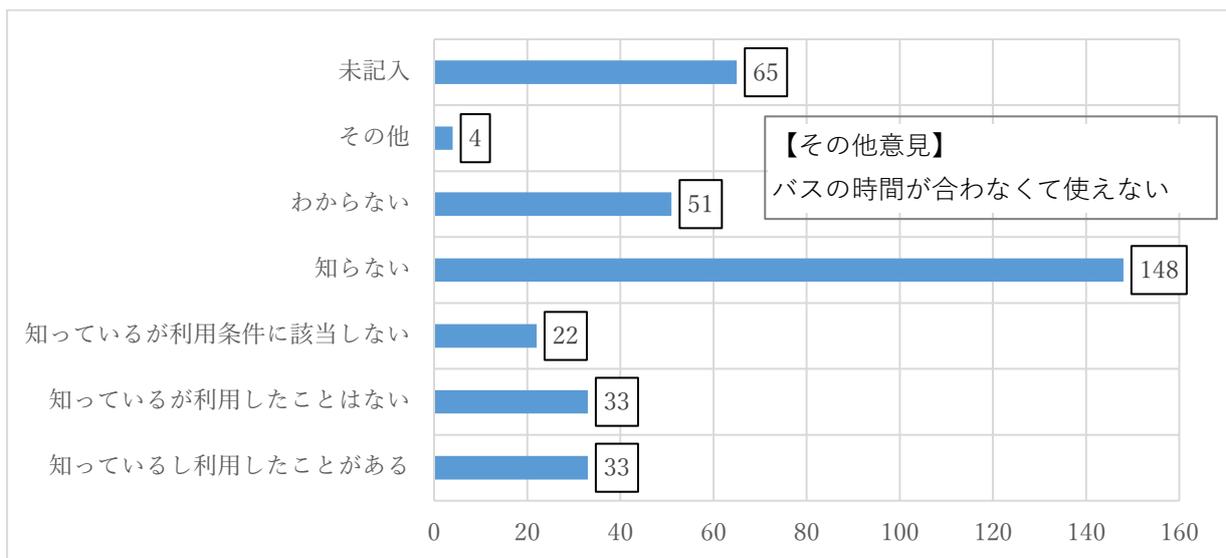
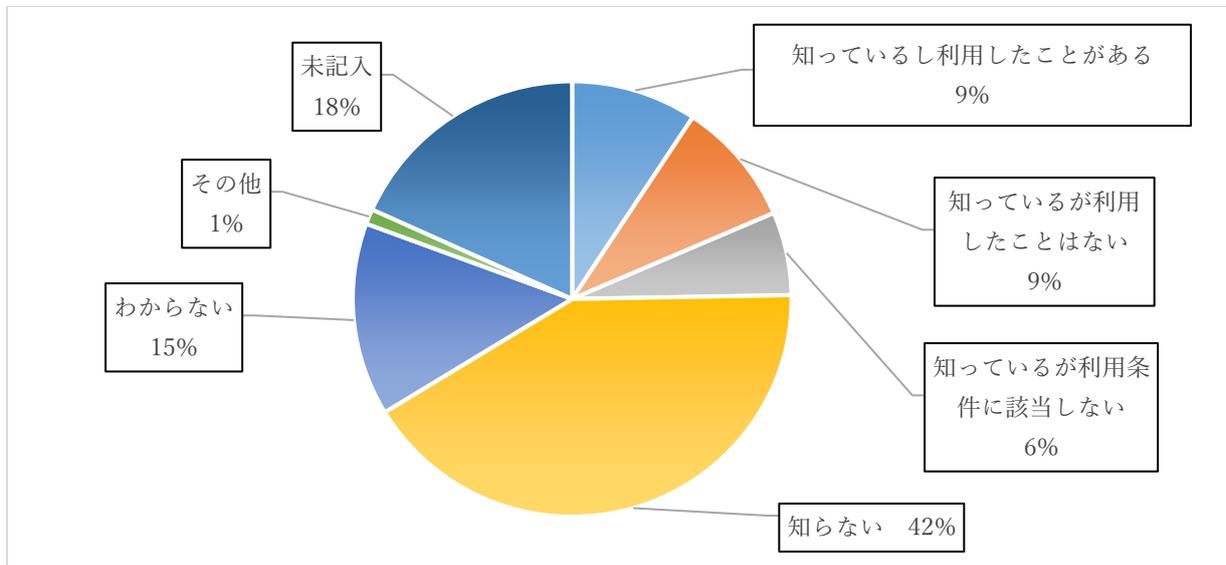
障がいの有無についてはデリケートな部分が多く、わからないといったことも想定されますが、障がいのある方が安心して就労するためにも、合理的配慮について企業等へ周知する必要があると思われます。

問24 障がいのある方と共に仕事をする上で、合理的配慮されていることについて



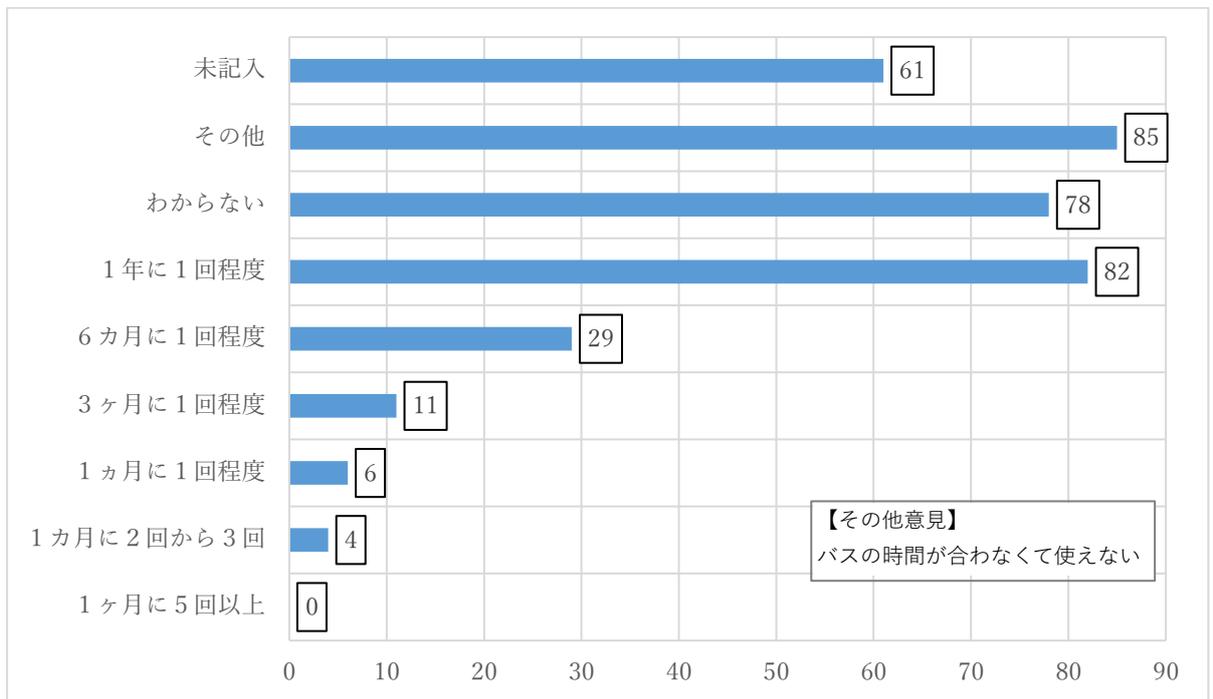
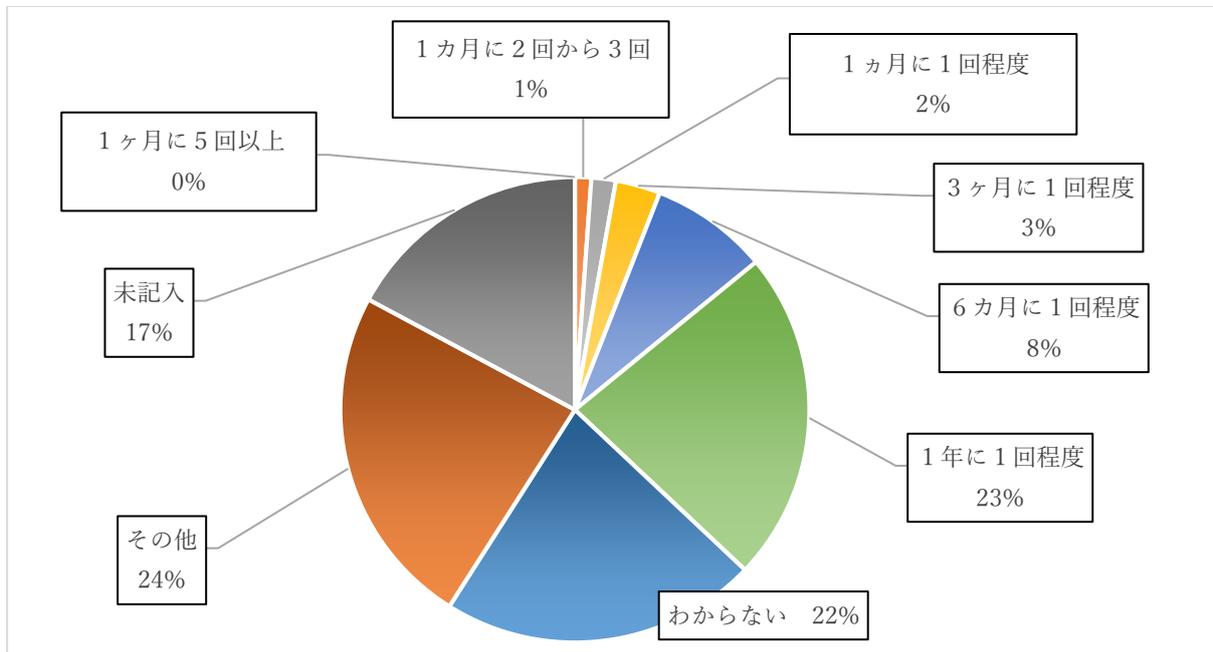
合理的配慮「されている」と回答された方は、「されていない」と回答された方よりも5%高い結果となりましたが、全体をとおしてみると、「わからない」と回答された方が60%以上を占めており、社会における合理的配慮の周知・理解の促進が必要と思われます。

問25 知的・精神に障がいのある方に対し、就労や通所時の交通費を助成する制度について



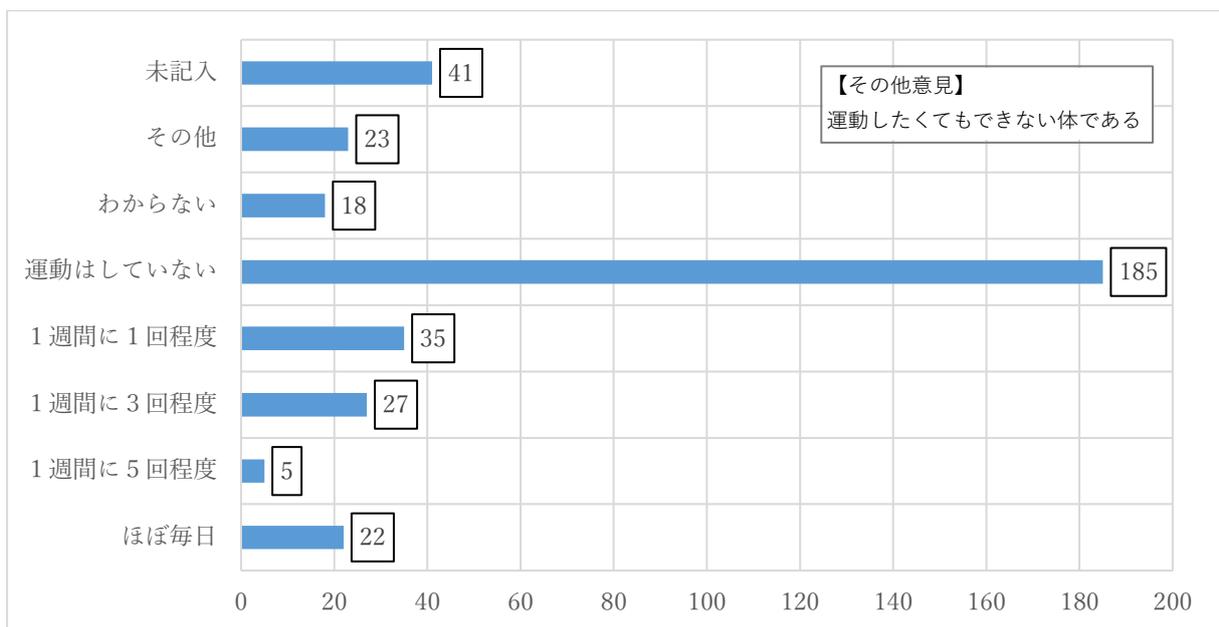
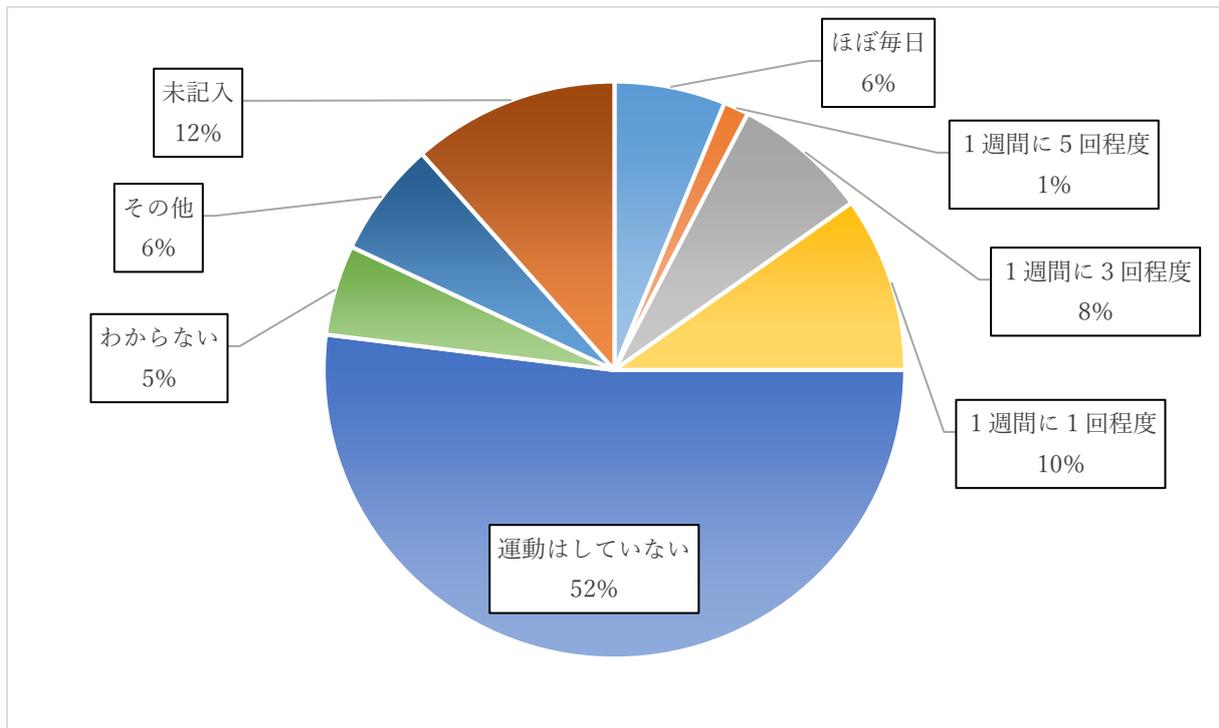
本制度については、障がいのある方に対して、社会に出る機会の支援策として実施しており、障がいのない方の認知度については低いものかもしれませんが、4分の1の方が、制度について知っていると回答されており、利用していない方又は利用できない方への支援を検討する必要がある結果となりました。

問26 あなたはどのくらいの頻度で文化芸術鑑賞(美術館・博物館・映画館等)に行かれますか



文化活動への参加状況についてアンケートを取らせていただきましたが、大半の方が1年に1回という結果となり、その他内容では「行かない・行けない」と言った意見もあり、身近な場所で鑑賞できる状況にないのも参加状況が低い要因であったと思われます。文化活動イベント周知が必要と思われます。

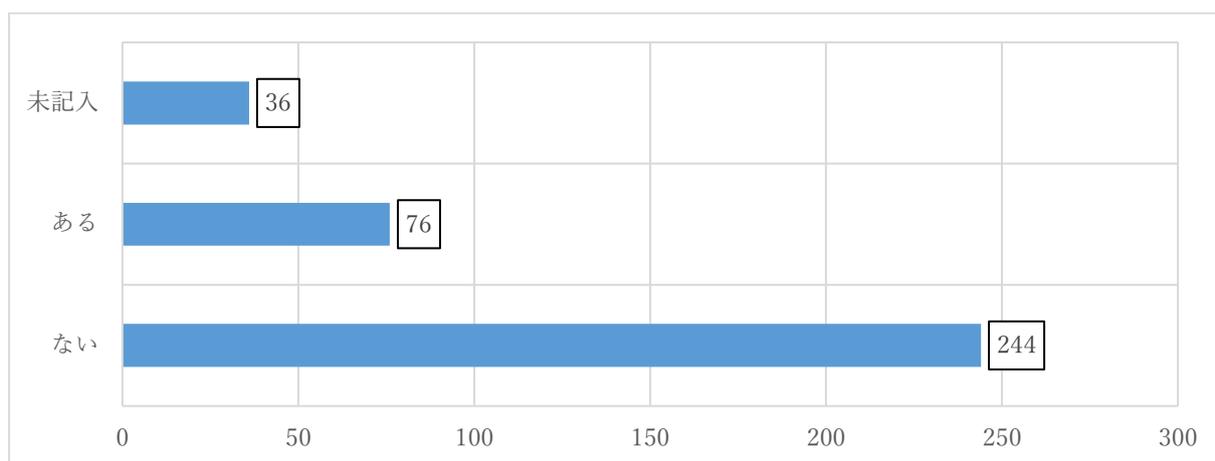
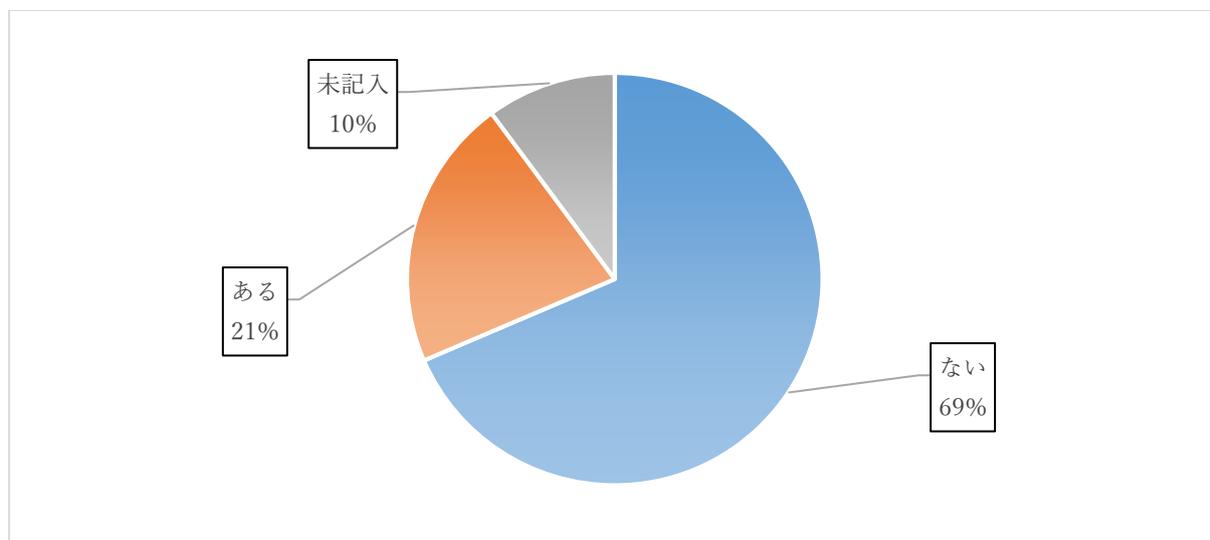
問27 あなたはどのくらいの頻度でスポーツをしていますか



アンケートの回答者の半数近くが70歳以上という結果もあり、「運動はしていない」と回答された方が圧倒的に多い結果となりました。

健康増進のためにもスポーツ・運動は重要なものとなることから、その重要性等の周知活動が必要と思われます。

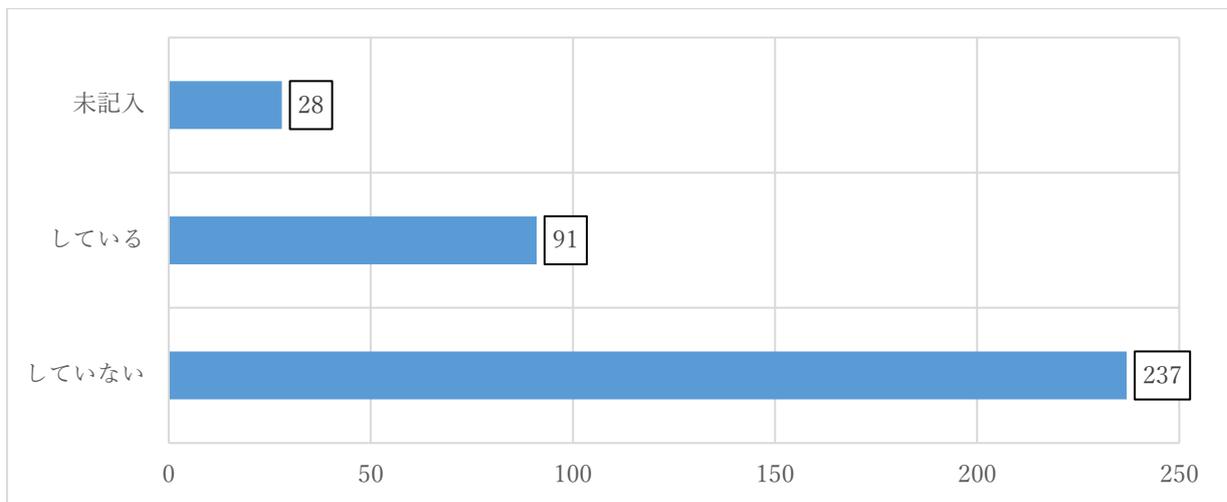
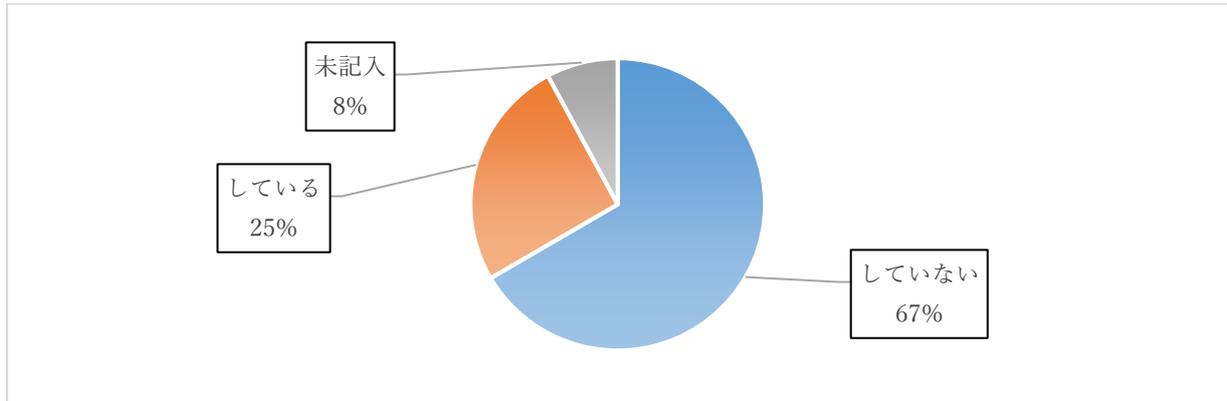
問28 障がいのある方が参加するスポーツ大会に参加・観戦したい と思いますか



令和2年に2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、オリンピックのマラソン競技が北海道で行われることとなり、一定程度の参加・観戦に興味を示される方がいると思われましたが、現に運動されていない方と比例した結果となりました。

障がいのある方のスポーツ社会への参加が増加している中、その活動等について周知が不足していることも否めない状況にあります。

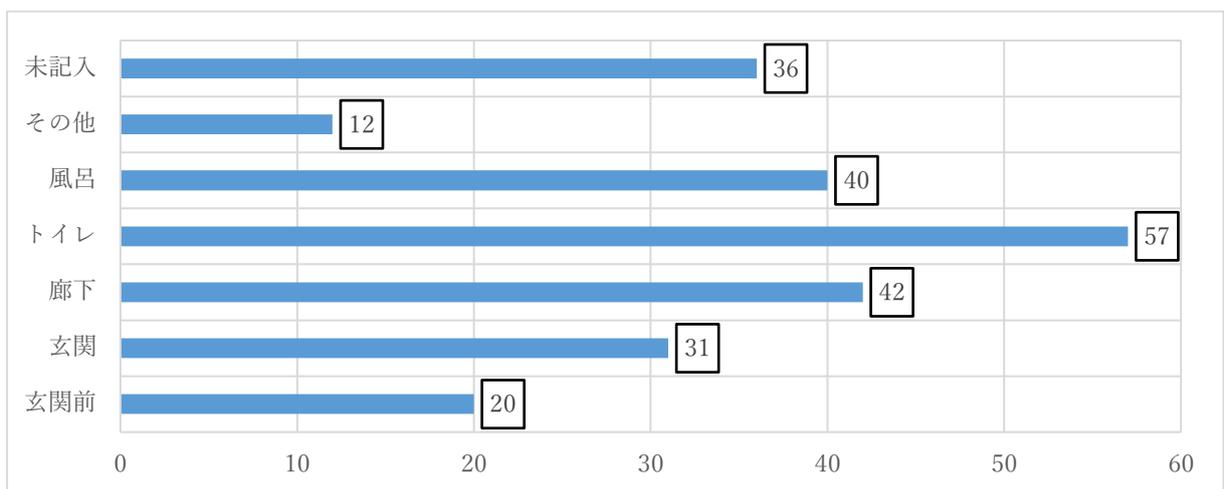
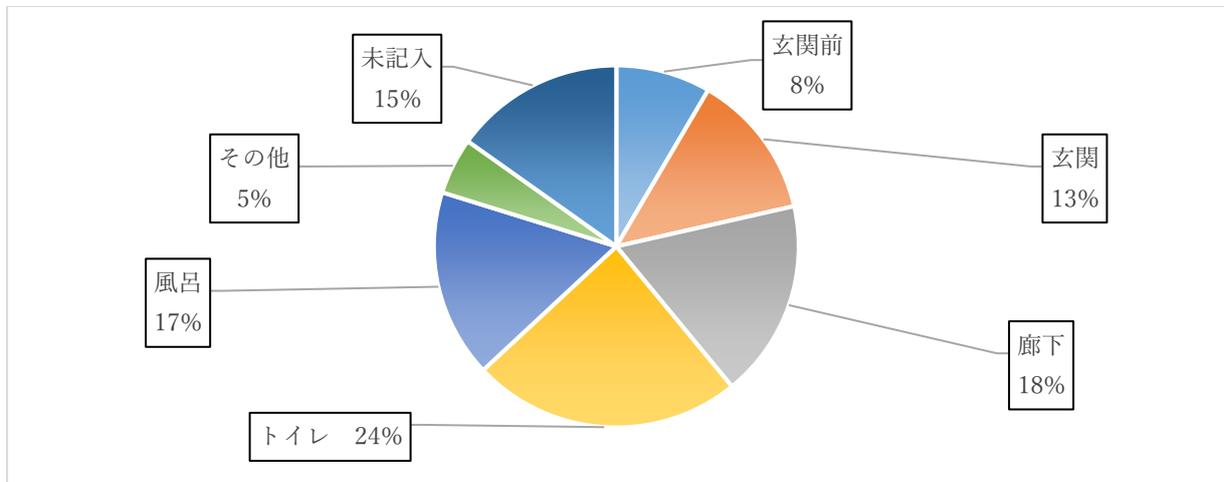
問29 現在の住まいについてバリアフリー化されていますか



何かしらのバリアフリー化をしていると回答された方は、全体の25%であり、障がいの有無を問わず、バリアフリー化が浸透していないような状況となりました。

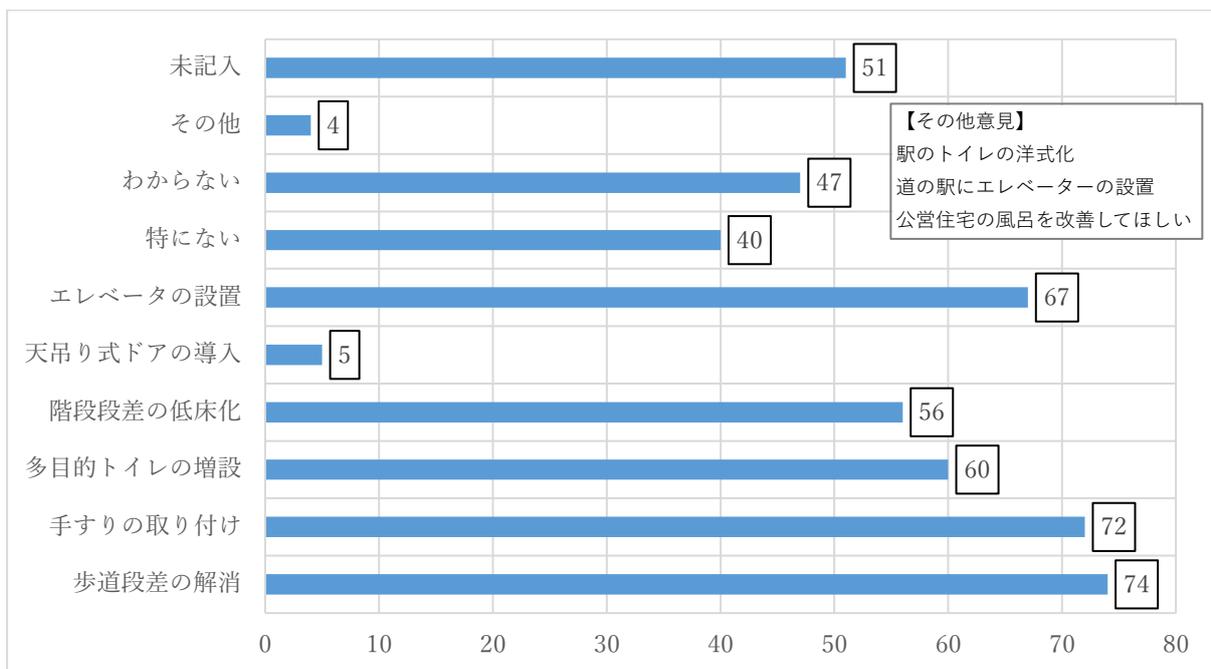
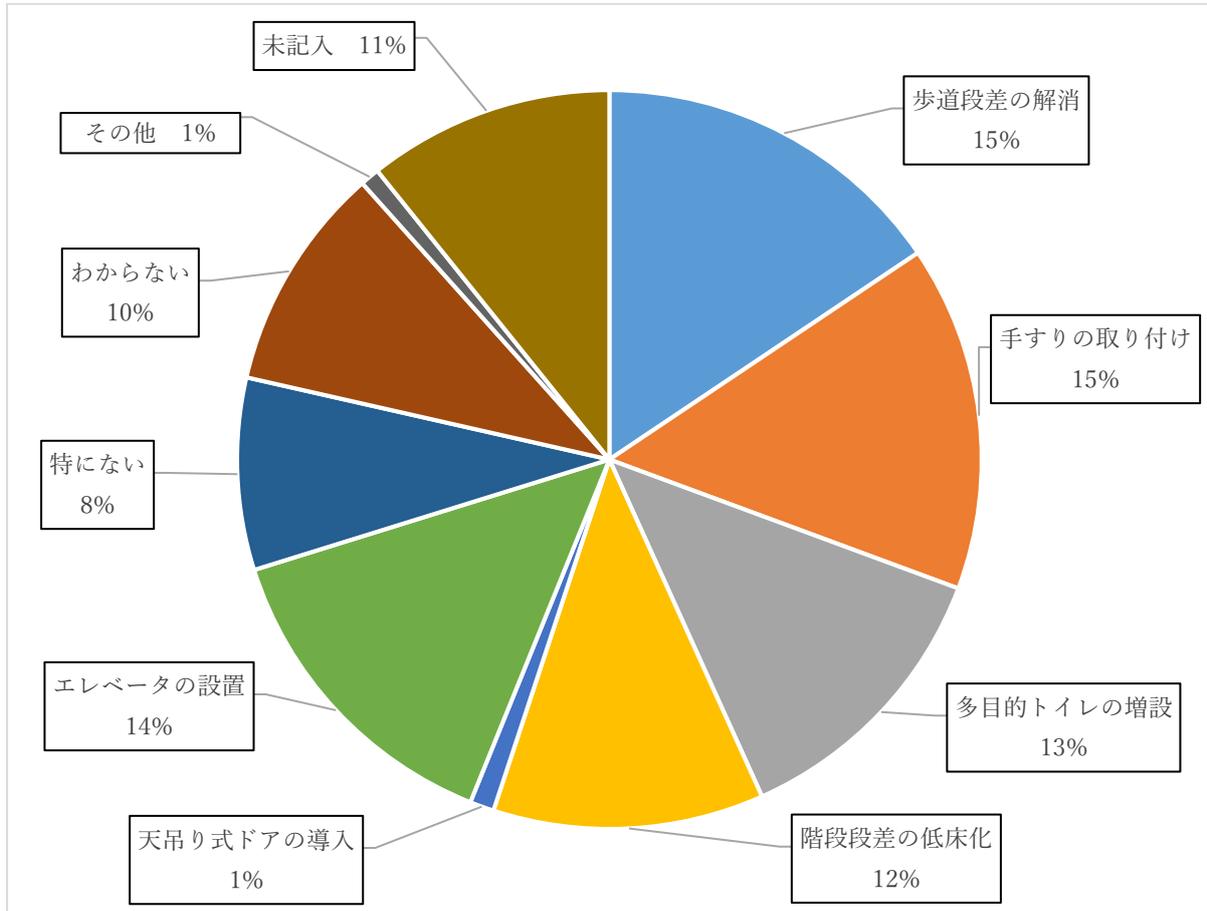
しかしながら、バリアフリー化の実施については個人費用が伴うこととなり、容易に行えるものでもないことから、安心した在宅生活ができるよう、既存の制度等について周知をすることが重要と思われる結果となりました。

問29-1 問29でバリアフリー化されている場合、バリアフリー化している箇所はどこですか



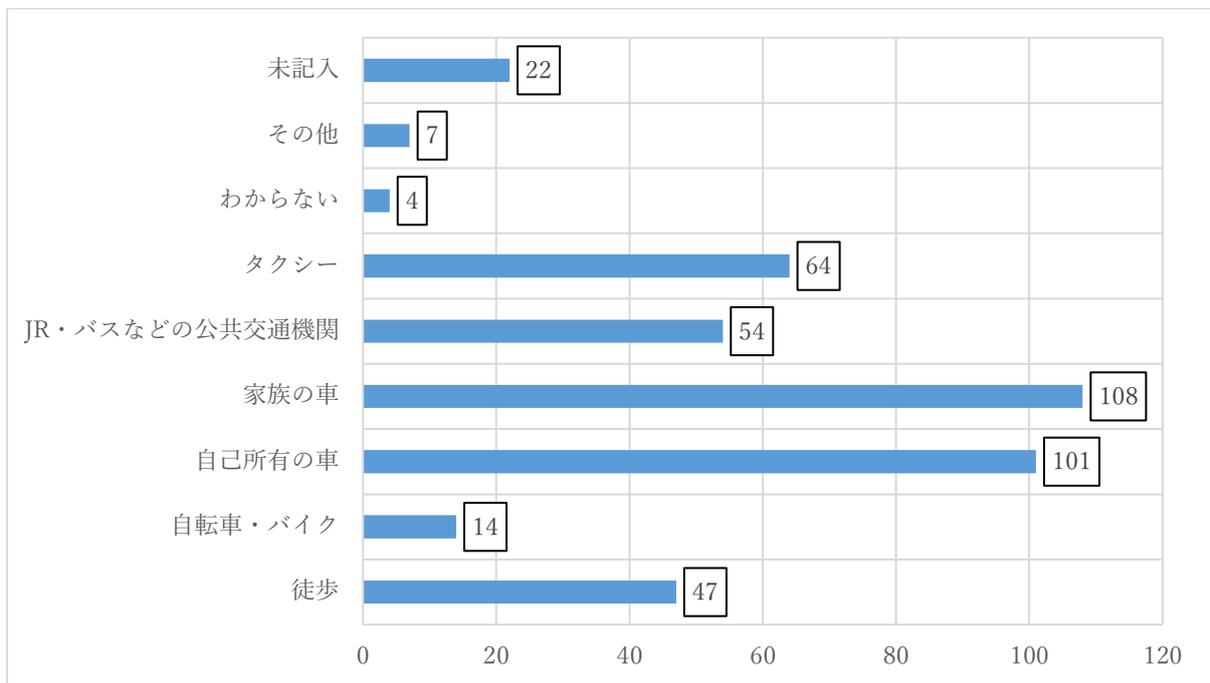
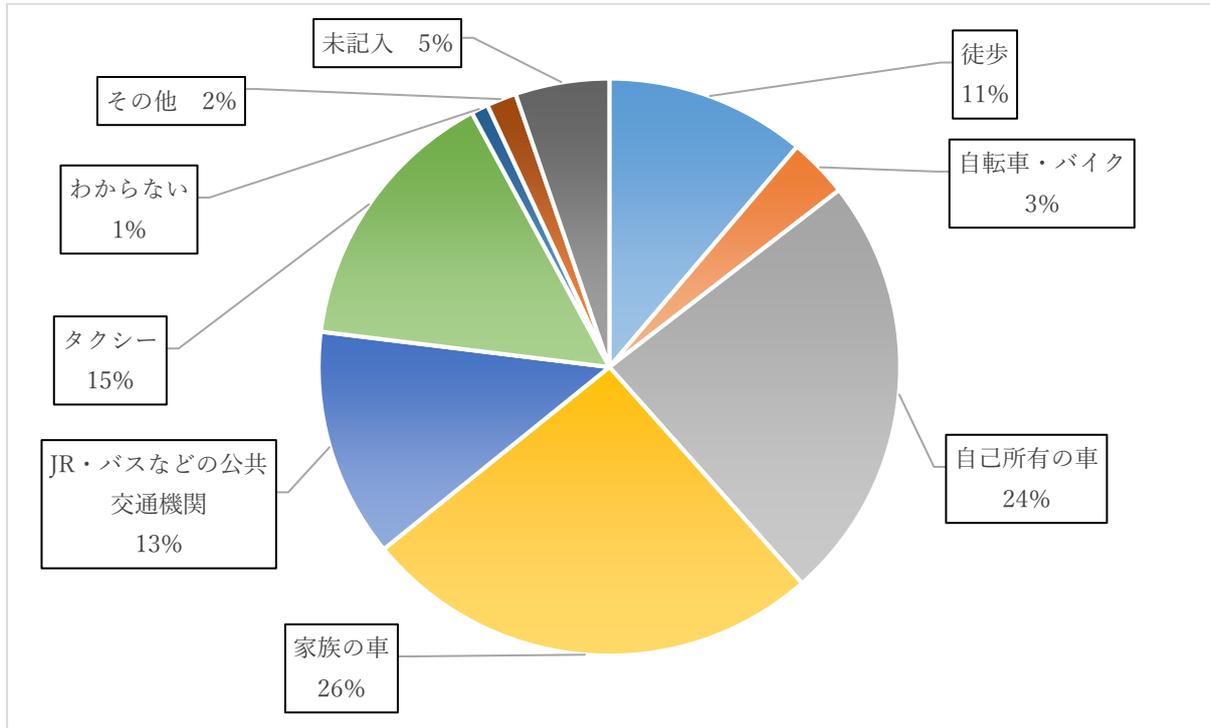
バリアフリー化していると回答された方のうち、一番多いのは「トイレ」で全体の24%を占め、次に多いのが「廊下」と「風呂」となり、一人で行動する場所のバリアフリー化が多いことがわかりました。

問30 公共施設に求めるバリアフリー化について



公共施設に求められているバリアフリー化は上記のとおり、歩行に関する要望が圧倒的に多く、今後の施策の参考となる回答を得ることが出来ました。

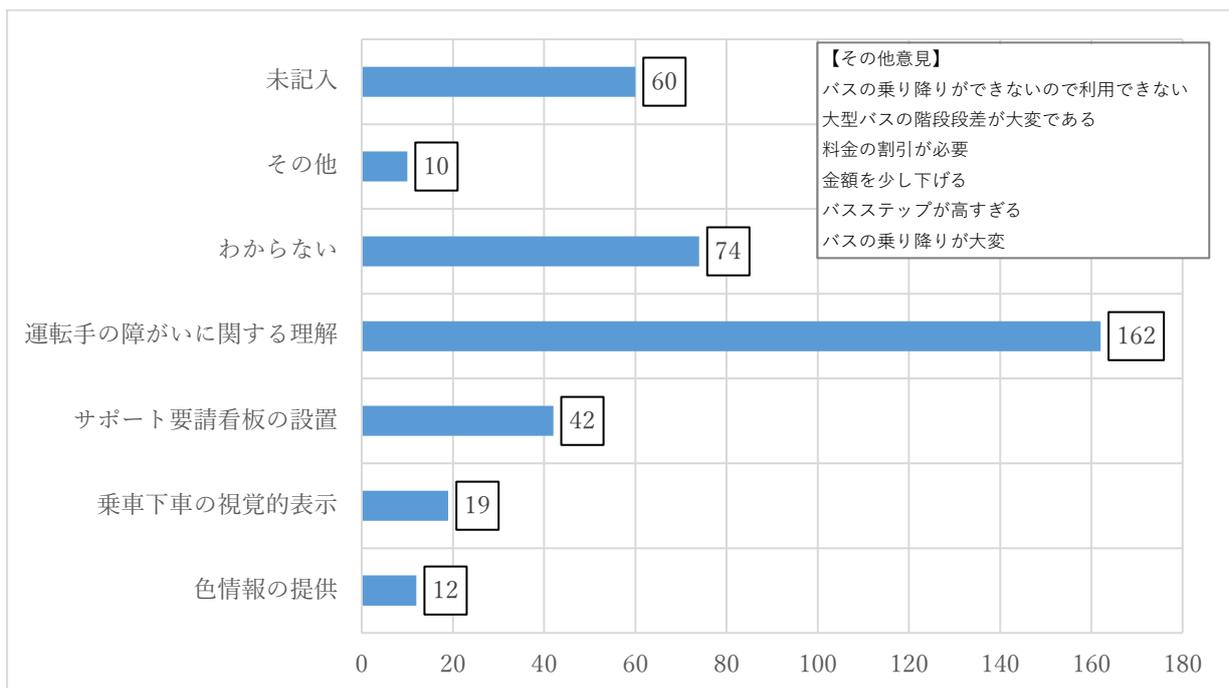
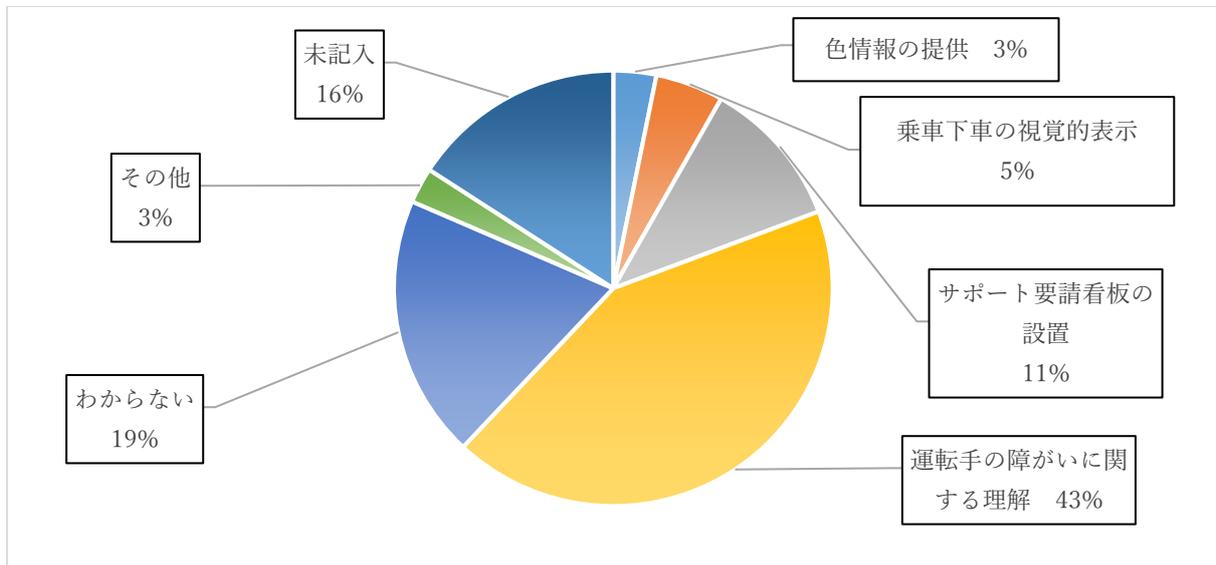
問31 普段外出する際の主な交通手段について



アンケート実施時において、回答者自身又は家族の車を利用されている方が多い結果となり、次いでタクシー、公共交通機関となっております。

高齢化社会により運転免許証返納が取りざたされていること、地方でのJR・バスの減便などによる交通の確保が社会問題視されつつあることから、アンケート結果を現在の動向として把握し、今後の参考とさせていただきます。

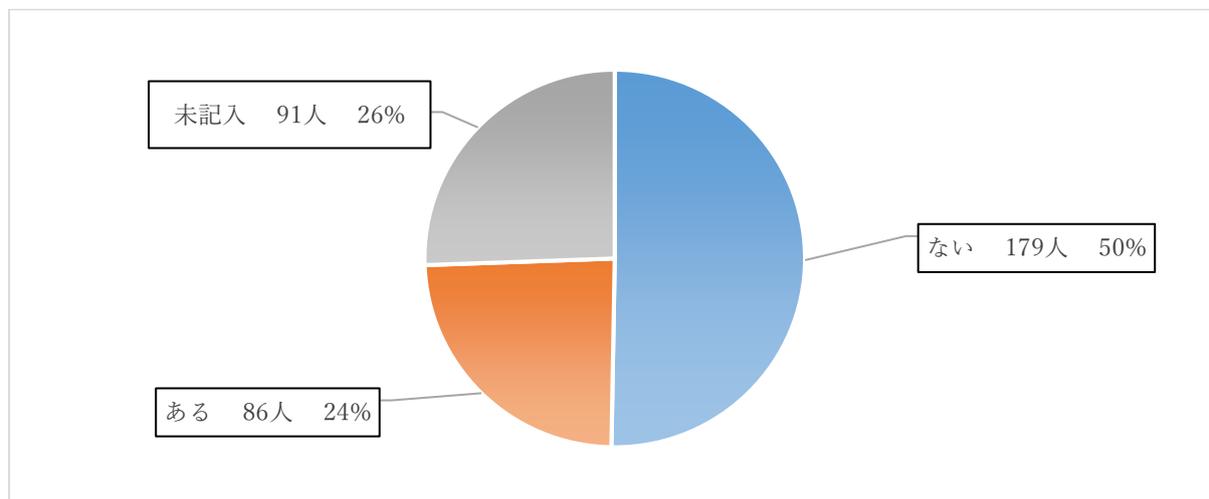
問32 障がいのある方がバスやタクシーを使用するうえで、必要と思われる配慮について



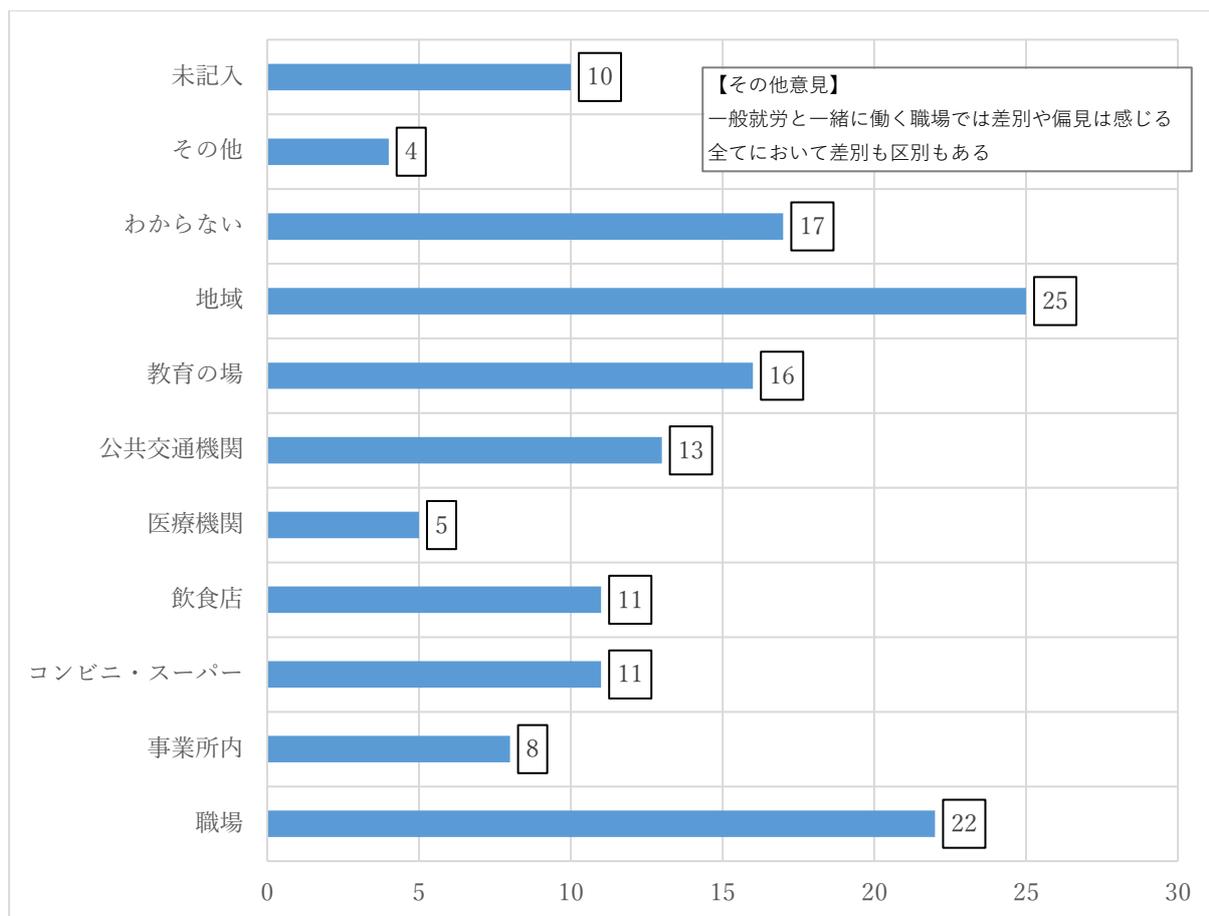
本項目については圧倒的に、「運転手の障がいに関する理解」と回答された方が多い結果となりました。

社会生活における様々な場で合理的配慮が求められていることから、「障がい」に関すること、合理的配慮について企業等へ周知徹底する必要があると思われます。

**問33 あなたの周りで「障がい」を理由とする差別や偏見があると思いますか
 いますか
 また、どのような場面であると思いますか**



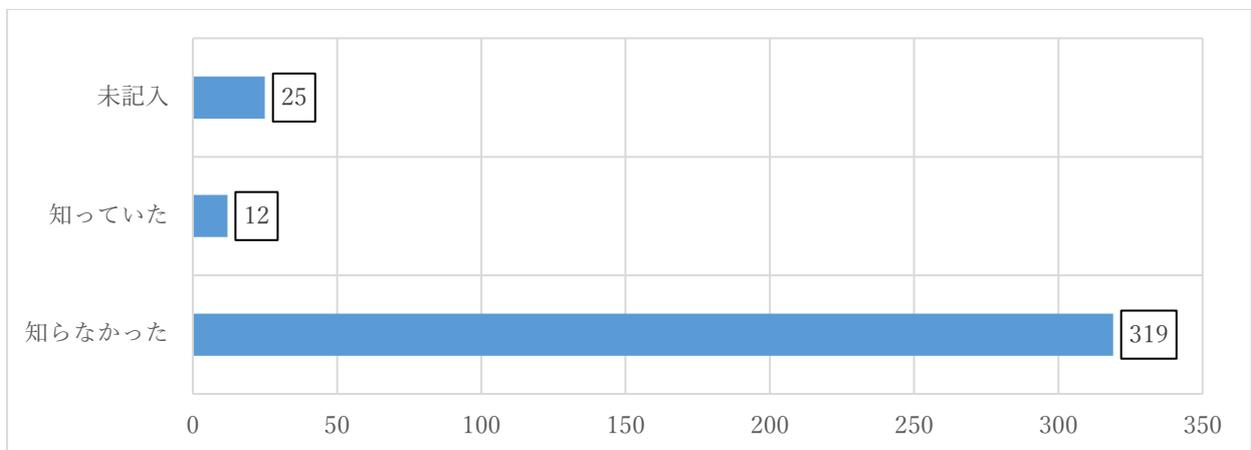
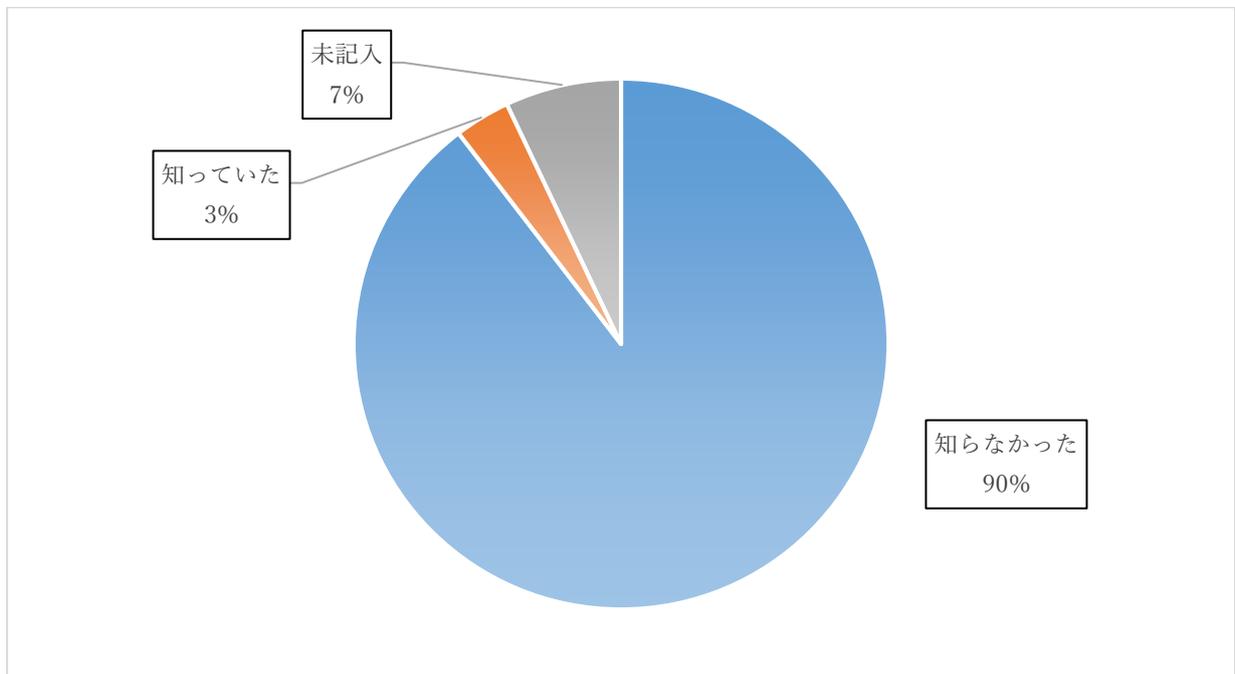
【「ある」と回答された方が、差別や偏見があると思う場面】



障がいを理由とする差別や偏見があると思われる方は回答者の24%を占めており、特に地域・職場で差別や偏見があると感じている方が多くいることがわかりました。

共生社会の実現に向けた理解促進研修等の必要があると思われます。

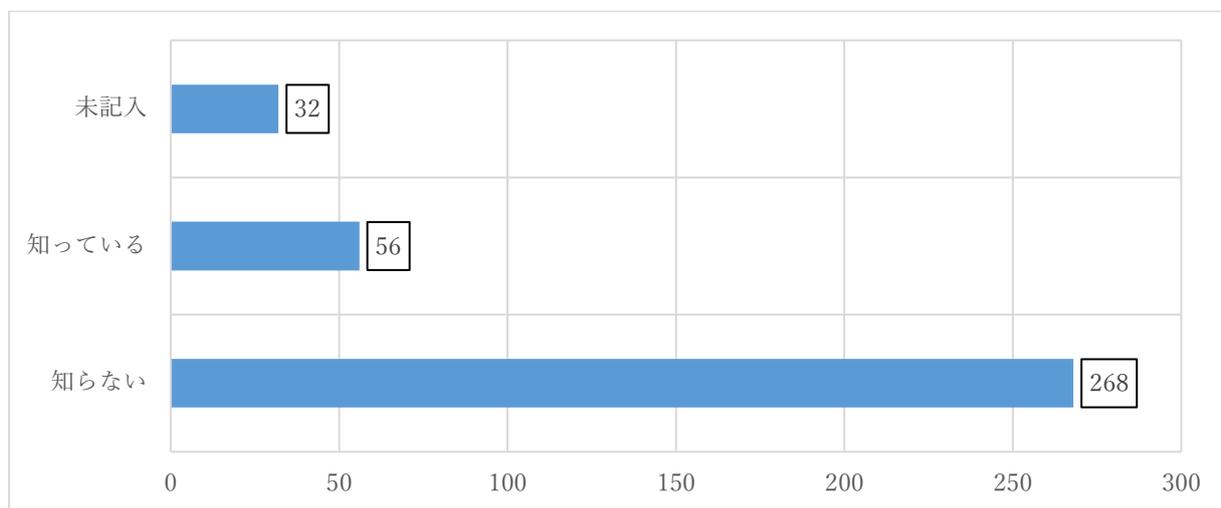
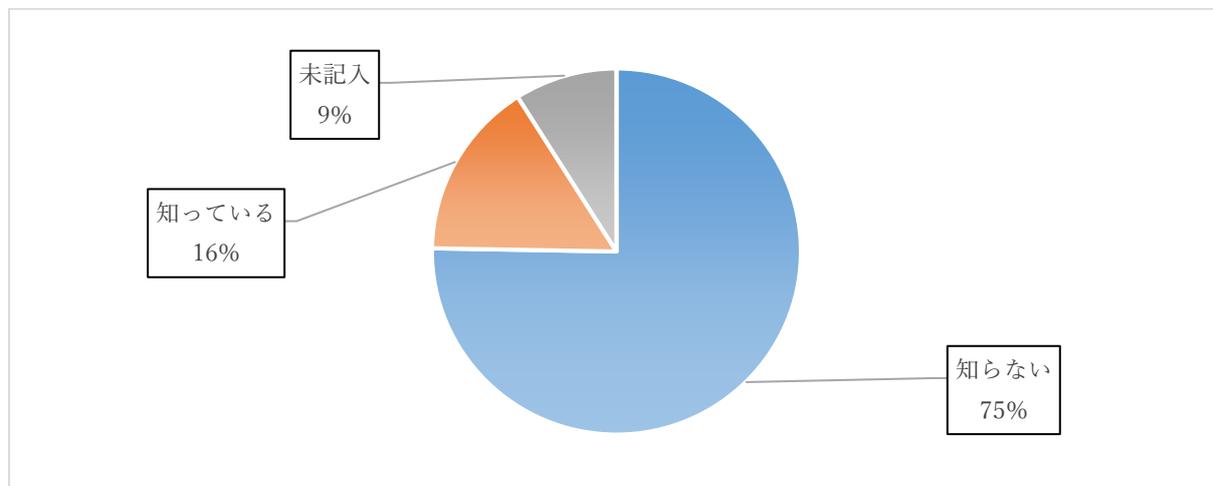
問34 芦別市には障がいのある方の権利擁護や虐待防止を担う芦別市障がい者虐待防止センターがありますが知っていましたか



回答者の大半が「知らなかった」と回答され、その知名度がまだ低い状況であることがわかりました。

障がいのある方の権利擁護・虐待防止には早期相談・早期発見が重要となることから、広報・ホームページなどを通じた周知策の実施が早急に必要と思われる結果となりました。

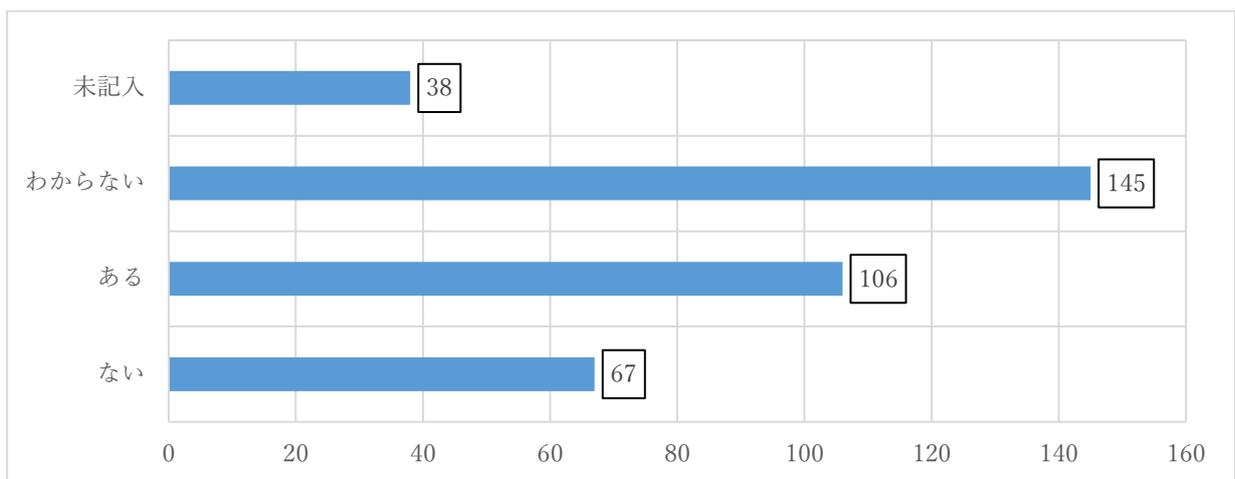
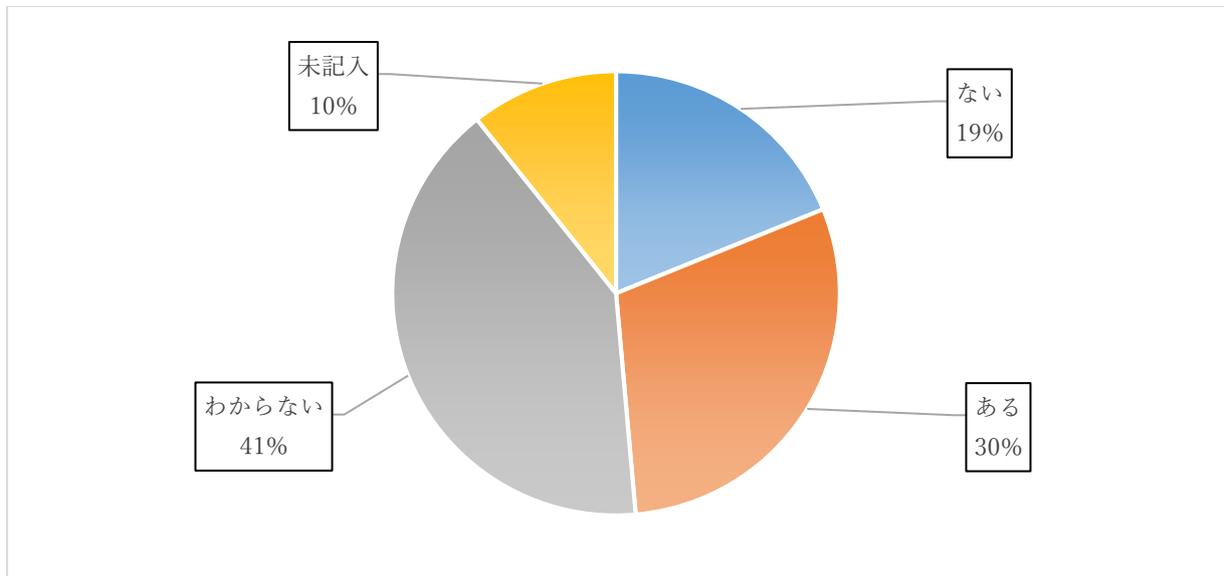
問35 ヘルプマークを知っていますか



新聞・ニュース等により、ヘルプマークに対する理解が増えてきておりますが、依然として「知らない」と回答された方が75%もいる状況です。

ヘルプマーク自体にはその効力などはないものですが、共生社会の実現、合理的配慮のある社会に向けて、必要な施策となることから、その目的も含めた周知の実施が必要と思われまます。

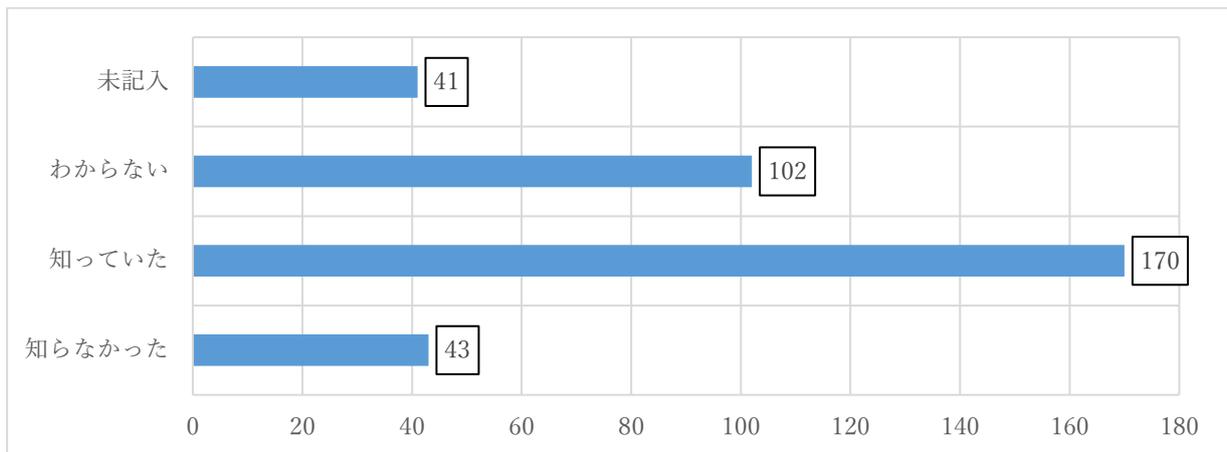
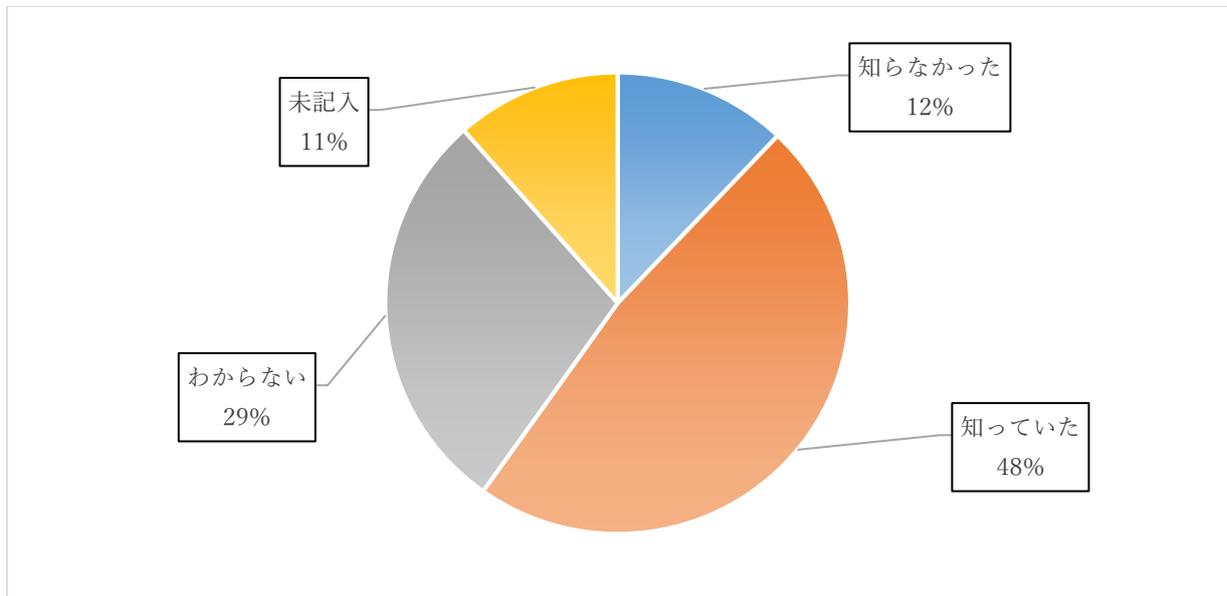
問36 あなたの生活する地域では防犯・防災意識があると思いますか



地域における防犯意識は、地域で生活する方々の情報共有等の場にも繋がりますが、本アンケート回答者の41%の方が「わからない」という結果となり、コミュニティ能力が低下してきていることが見受けられる結果となりました。

共生社会の実現に向け、地域と連携した体制を確立させることが重要と思われます。

問37 災害時に一人で避難することが難しい方がいることを知っていますか

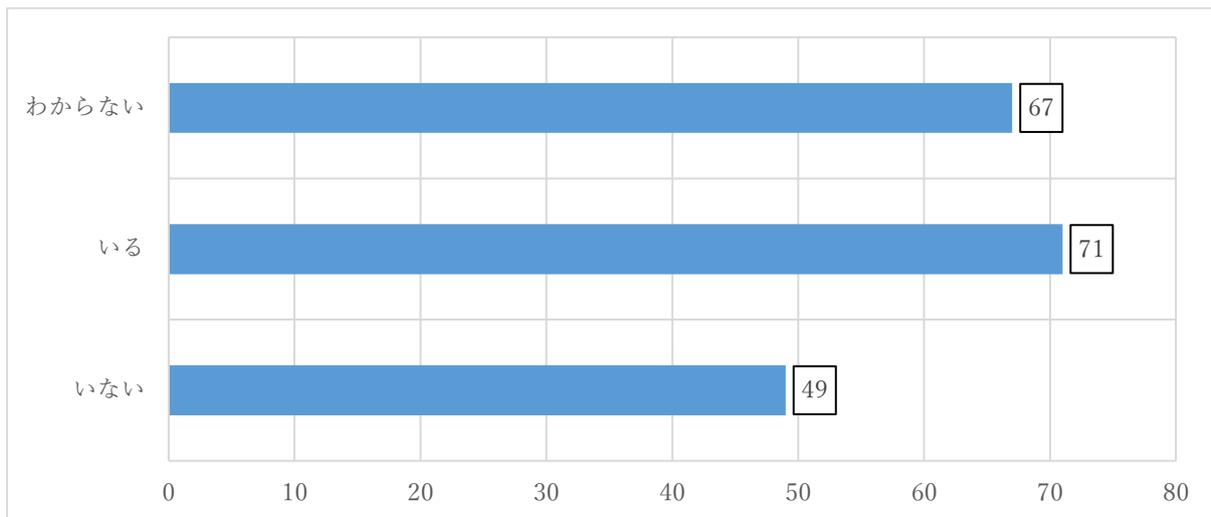
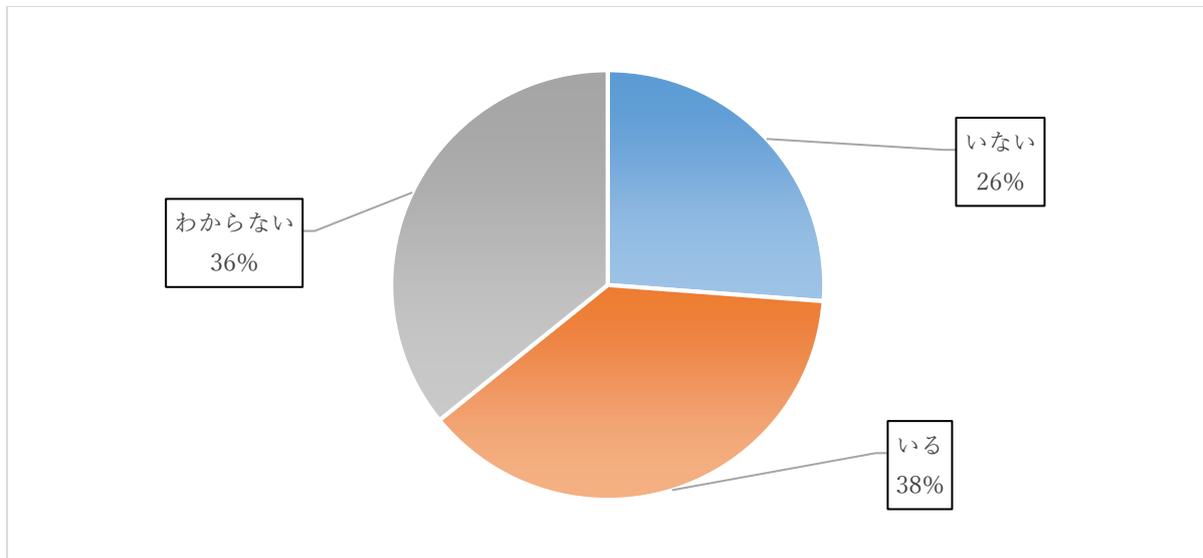


障がいのある方の中には、災害等が発生した際に介助等がなければ移動することができない状況の方もおり、アンケートにおいてその認識度を調査いたしました。

結果として、48%の方が「知っていた」と回答されておりましたが、情報等の浸透がされていないものとなりました。

地域のコミュニティ能力を高めるためにも、具体的な支援が必要な例などを周知する必要があると思われる結果となりました。

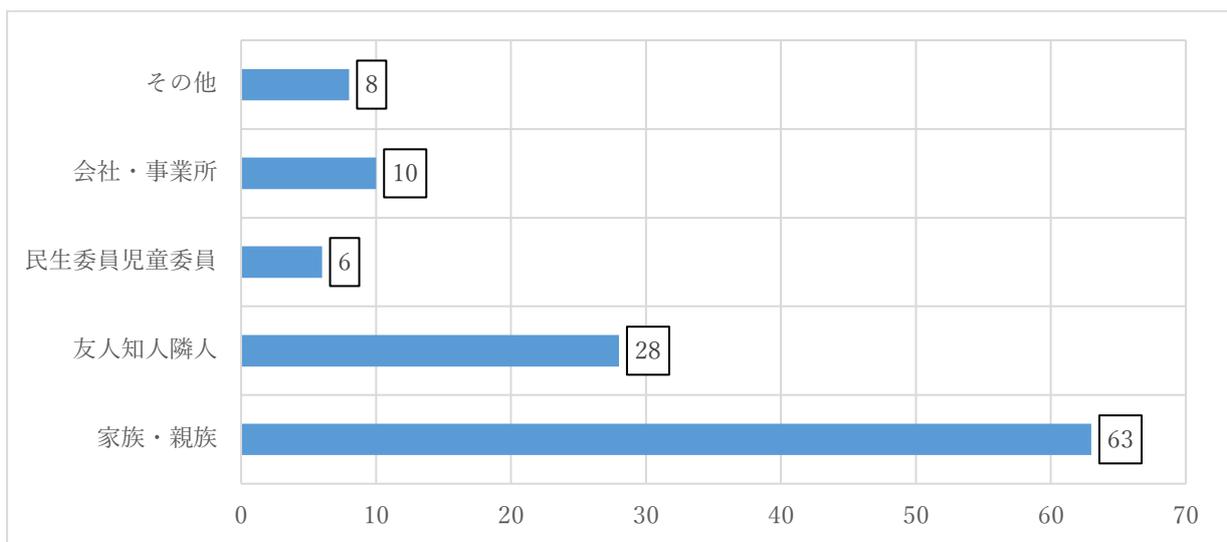
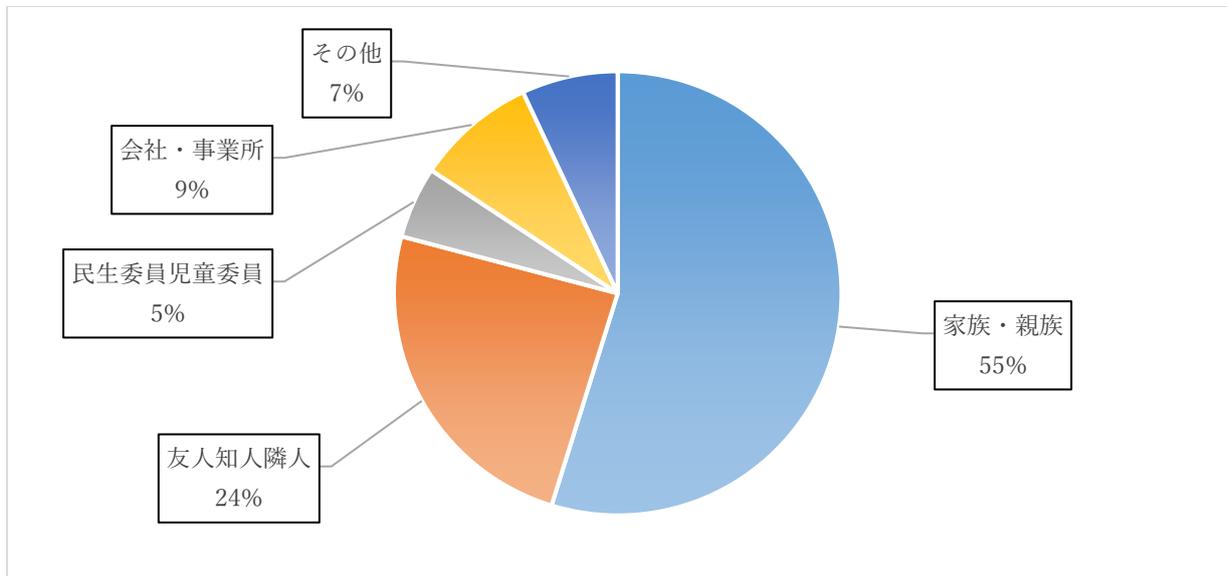
問38 災害時に一人で避難できない方への質問です 近隣住民の方で避難介助をしてくれる方はいますか



災害時に一人で避難できない方の中には、その支援をしてもらえるかわからないと回答された方が多くいる状況であることがわかりました。

問36の防犯意識の結果と比例したものとなっており、日頃からの地域との関わり、連携していくことの重要性を改めて考えさせられる結果となりました。

問39 問38で「いる」と回答された方は、避難介助してくれる方を教えてください



避難介助をしてくれる方の多くは「家族・親族」、次いで「友人知人隣人」となっております。

避難介助をしてくれる方と広く、多く関係を持つことは、安全安心にも繋がるため、その重要性について周知していく必要があると思われます。

自由意見

- ・差別のない社会があればいいと思う
- ・就労支援 B 型の工賃をもう少し上げてほしい
- ・交通費を今までどおり全額を市で負担してほしい
- ・食費を何パーセントでもいいから障がい手帳で割り引く制度があると嬉しい
- ・動物園や映画館とかの割引はいらぬ
- ・障がいがあるので何か起こった時には助けてもらいたい
- ・歩行が出来ぬため福祉センター等にエレベーターを三階までつけて欲しいです。高齢者には特に必要ですので
- ・障がい年金が下げられ生活に支障をきたすし、私達障がい者が生活困窮するかと思うと不安です。
- ・皆自殺行為の人が多くなります、私は死に物狂いで仕事
- ・障がい年金を少しずつ上げてほしい
- ・皆、障がい者はそう思っている。もう選挙に入れてやらないから
- ・物価があがるばかりで、生活に困難しますし、これ以上障がい年金を下げられると苦しみ of 生活をします
- ・今、私の願っていることは駅のトイレのことです。両足人工関節ですのでバスを待つ時に 1 番こまるのはトイレです。古式のトイレなので、その上にカバーを載せるだけでいいものがありますのでぜひ話し合っていたきたくペンを取りました。
- ・高齢で障がいがあっても一度も訪ねて来たことないですよ
- ・外出時、障がいの内容は違っても同じ障がい者が助けが必要なのではと思う場面がよくあるが、自分自身が所用や時間の制約の奏で動いているので簡単に助け舟を出すことができないことが多い。
- ・助けの必要な人が多いと思うが気軽に依頼できる仕組みが必要ではないかと思う。
(現状はボランティアのみなのか?)
- ・障がいのあるなしに限らず、依頼事は事前にはしておかなければ難しいと考えるがいかだらう。バスの乗り降りくらいならだれでも気軽に手助けしていると思うのだが・・・。
- ・札幌の病院に行くことがあるが、その障がいにより運賃に差があり、障がい者への差別だと思う

- ・とにかく健康で仲間と常に明るく過ごせるよう頑張りたい
- ・障がい者との話し合いの場をもっと持ってほしい
- ・参加者案内などダイレクトメールで連絡欲しい
- ・ほとんど知らないうちに知らない場で終わっている
- ・直接本人と会って聞き取りしてほしい
- ・冬場の燃料費除雪費の補助を考えてほしい
- ・具体的にどんなヘルプがあるのか、こちらから求めなくても広く知らせるべき
- ・親がいなくなっても一人で生活できる場所を作ってほしい
- ・通所に使うタクシー代をもう少し安くしてほしい
- ・芦別市における各障がい者の実態を知りたいと思う。(男女別年齢構成等)
- ・障がい者でもあり高齢者なのでよろしくお願ひしたい
- ・障がいに関わらず高齢者が多いので何かとよろしくお願ひしたい
- ・認知症が進行中のため、本人は質問の内容が難しく、○つけ行為が不可能でした。
- ・障がいよりも高齢者に対して男性は態度が悪い
- ・障がい者に幅広い職場を
- ・現在は一人で何でもできるが、年々足に障がいがあり夫も高齢でこれからが大変なので、一人が倒れたら施設に入りたいと思うので、その時に助言してほしい
- ・令和3年6月で障がい者のタクシー券が廃止になるが、高齢者は免許を返納して車に乗れないのでタクシーが唯一の頼みです。通院が多いので存続をお願ひしたい。
- ・アンケートに対して「あてはまるもの一つに○を」とはいかがか？
- ・第3期となっているが、このアンケート調査となっているが役に立っているのか？
- ・この件に対してアンケートを取らないと出来ないことか？
- ・現在59歳であるが10年後あるいは将来年をとった時にどうなっているか？
- ・若い人たちにも発信できるLINEやTwitterを始めたのはとても良いことだと思います。若い人の登録状況はわかりませんが、活用して各サービスや制度の利用方法などをもっとわかりやすく伝えてみてはどうか
- ・障がい者が安心して暮らせるまちづくりを、差別や偏見ないまちづくりをお願ひしたい
- ・困ったときに相談ができる場が欲しい
- ・臨時的に車椅子を貸してほしい。無料じゃなくても有料でも安く貸してほしい

- ・困っている時に助けてくれる人や施設がない。市役所はなにもできないし、してくれないのはわかっているけど・・・
- ・自分も年ですので、いつお世話になるかわかりませんので他人ごとではありません。子供の世話にならないように気を付け動いています
- ・障がいの等級などにより受けれる制度のリストと、それらのわかりやすい説明文、資料の提供をしてほしい
- ・親がいなくなった時に残された兄弟に負担がかからないような制度を作してほしい
- ・芦別市では何を言っても無視される。何をどう話していいのかわかりません。お年寄りにとても冷たいまちです
- ・住宅の事など色々相談しているのですが、住宅係にいつも無視されます。
- ・住居、仕事の確保をお願いしたいです。市でできないのであれば、星の広場さんで行われているような事業への支援をお願いしたい
- ・グループホームの数は足りているのでしょうか？その建物はあたたかいのでしょうか？
- ・自立へ向けた生活、余暇の充実への支援をお願いしたい
- ・駅への橋の街灯が暗く感じる

以下、

10代の方から長文にわたるご意見をいただいておりますので、全文を掲載します。

これからの社会で、障がいの有無に関係なく、互いに人格・個性を尊重できるようにしていくには、健常者全体が「障がい者は“特別”」という意識をなくすべきだと思いました。

ドイツでは障がい者に対する偏見や差別が少なく、そもそも「障がい者」という単語がありません。

しかし、日本は欧米諸国よりも障がい者環境が大きく遅れているそうです。

だから国としては、欧米諸国の環境や考え方に倣って、障がい者への方策を進めていくべきだと思いました。

芦別市としてはですが、まずは、今芦別で暮らしている、暮らそうと考えている障がい者及びその家族に対する方策を幅広く行うべきだと思いました。

例えば、よく利用される公共施設のバリアフリー化や、障がい者が安心して快適に暮らせる団地などの設置などが思いつきました。

そして、将来的な障がい者と健常者が全く差別なく暮らしていくには、障がい者を“特別な人”として扱わない教育が一番大切だと思いました。

とは言っても、ただ道徳の時間などにビデオを一本観るだとか、年に数回講師の方の話を聞くなどでは、実際効果はないと思いますから、日常的に障がいに対する理解や考えを持てる仕組みが必要だと思いました。(特に幼稚園や小学校で)

また、パラリンピックの選手なども誘ってスポーツ交流会をするのもよいのではないのでしょうか。

私も小学生の特、クラスに障がいを持った子がいて、運動会などでは「あいつ足遅いし、あいつのせいで苦労するな。隣のクラスは障がい者がいなくていいな」と思ったこともありますし、今の小学生にもそういう考えの人がいると思います。

そういう考え方をなくすためにも、芦別市が教育の方策を考え、変えるべきだと思います。

こんなのは、ただの普通の高校生のパツとしない意見・考え方だと思いますし、なんだ偉そうにと思うかもしれませんが、こういった社会問題(?)を、考える力・想像力豊かな若い世代にもっともっと積極的にアンケートをとり、多種多様な意見を得る必要があると思っています。

こんな長文読んでもらえるかわかりませんが、一生懸命つたない文を書かせてもらいました。このような意見ができる機会があって嬉しいです。

ありがとうございました。

以上

第3期芦別市障がい者計画策定に関する
アンケート調査集計書

令和2年3月発行

発行	芦別市
編集	芦別市市民福祉部福祉課
住所	〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地
電話	0124-22-2111
FAX	0124-22-9696
メール	fukushi@city.ashibetsu.hokkaido.jp